

## 第49回

全国特別支援教育センター協議会

研究協議会（大阪府大会）

一人ひとりがいきいきと活躍できる共生社会の実現

—「ええやん」と認め合える社会をめざして—

# 聴取事項の集約結果

## 第1分科会 教育相談

多様なニーズに応える相談・支援の在り方

## 第2分科会 研 修

特別支援教育を担う全ての教員の専門性向上に向けた研修の取組み

## 第3分科会 調査・研究

地域の現状に応じた特別支援教育推進に向けての調査・研究の取組み

## 第4分科会 管理・運営

インクルーシブ教育システム推進に向けた特別支援教育センターの役割

期日 令和7年10月30日（木）・10月31日（金）

主催 全国特別支援教育センター協議会

主管 大阪府教育センター

後援 文 部 科 学 省

大阪府教育委員会

# 目 次

第1分科会（教育相談）	．．．．．	1
第2分科会（研 修）	．．．．．	10
第3分科会（調査・研究）	．．．．．	24
第4分科会（管理・運営）	．．．．．	40

## 【調査対象 63 機関】

<p>2 北海道立特別支援教育センター</p> <p>3 青森県総合学校教育センター</p> <p>4 岩手県立総合教育センター</p> <p>5 宮城県総合教育センター</p> <p>6 秋田県総合教育センター</p> <p>7 山形県教育センター</p> <p>8 福島県特別支援教育センター</p> <p>9 茨城県教育研修センター</p> <p>10 栃木県総合教育センター</p> <p>11 群馬県総合教育センター</p> <p>12 埼玉県立総合教育センター</p> <p>13 千葉県総合教育センター</p> <p>14 東京都教職員研修センター</p> <p>15 神奈川県立総合教育センター</p> <p>16 新潟県立教育センター</p> <p>17 富山県総合教育センター</p> <p>18 石川県教員総合研修センター</p> <p>19 福井県特別支援教育センター</p> <p>20 山梨県総合教育センター</p> <p>21 長野県総合教育センター</p> <p>22 岐阜県総合教育センター</p> <p>23 静岡県総合教育センター</p> <p>24 愛知県総合教育センター</p> <p>25 三重県教育委員会事務局</p> <p>26 滋賀県総合教育センター</p> <p>27 京都府総合教育センター</p> <p>28 大阪府教育センター</p> <p>29 兵庫県立総合教育センター</p> <p>30 奈良県教育委員会事務局 特別支援教育推進室</p> <p>31 和歌山県教育センター学びの丘</p> <p>32 鳥取県教育センター</p> <p>33 島根県教育センター</p> <p>34 岡山県総合教育センター</p>	<p>35 広島県立教育センター</p> <p>36 やまぐち総合教育支援センター</p> <p>37 徳島県立総合教育センター</p> <p>38 香川県教育センター</p> <p>39 愛媛県総合教育センター</p> <p>40 高知県教育センター</p> <p>41 福岡県教育センター</p> <p>42 佐賀県教育センター</p> <p>43 長崎県教育センター</p> <p>44 熊本県立教育センター</p> <p>45 大分県教育センター</p> <p>46 宮崎県教育研修センター</p> <p>47 鹿児島県総合教育センター</p> <p>48 沖縄県立総合教育センター</p> <p>49 千葉市養護教育センター</p> <p>50 川崎市総合教育センター</p> <p>51 横浜市特別支援教育総合センター</p> <p>52 名古屋市教育センター</p> <p>53 京都市教育委員会事務局 指導部総合育成支援課</p> <p>54 大阪市教育委員会事務局指導部 インクルーシブ教育推進室</p> <p>55 広島市教育センター</p> <p>56 北九州市立特別支援教育相談センター</p> <p>57 福岡市教育委員会発達教育センター</p> <p>58 静岡市特別支援教育センター</p> <p>59 浜松市教育委員会 教育支援課 発達支援グループ</p> <p>60 新潟市立総合教育センター</p> <p>61 相模原市支援教育課</p> <p>62 神戸市教育委員会 特別支援教育課 特別支援教育相談センター</p> <p>63 札幌市教育委員会事務局</p> <p>64 仙台市教育センター</p>
--	---

※機関番号1 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所は、調査対象としていない。

第 1 分科会

教育相談

## 第1分科会 教育相談に関する聴取事項の集約結果

### 主題 多様なニーズに応える相談・支援の在り方

1 教育相談の現状について(令和6年度実績を記入、表中の数値は回答機関数を表す)

(1) 特別支援教育に関する来所相談実績 (未回答・未集計は0としてカウント)

#### ① 来所相談の総ケース数

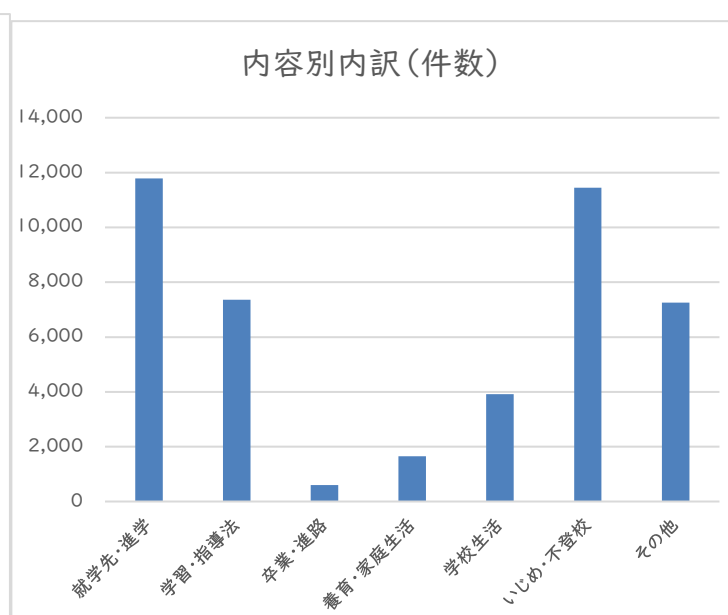
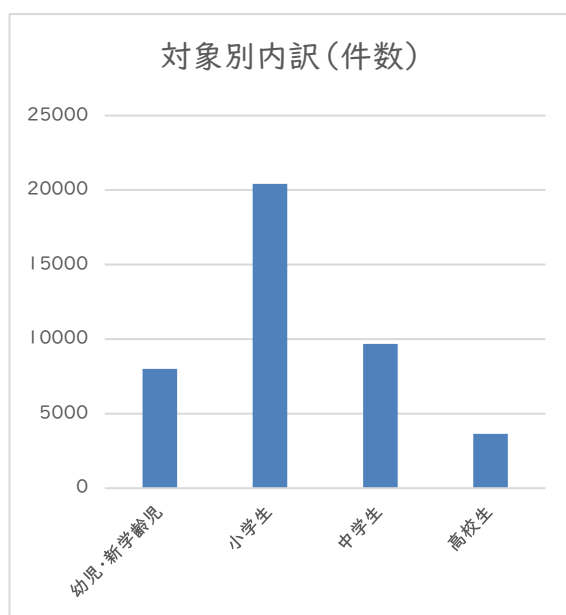
来所相談	件数	0 または未回答	1~100	101~200	201~500	501~1000	1001~2000	2001以上	計
総件数について		18	20	6	4	7	5	3	63

#### ② 対象別内訳

対象	件数	0 または未回答	1~100	101~200	201~300	301~400	401~500	501以上	計
幼児・新学齢児	件数	35	19	0	2	1	2	4	63
小学生	件数	23	22	4	2	1	1	10	63
中学生	件数	23	31	4	3	0	0	2	63
高校生	件数	30	29	3	0	0	0	1	63

#### ③ 内容別内訳

内容	件数	0 または未回答	1~100	101~200	201~300	301~400	401~500	501以上	計
就学先・進学	件数	35	19	3	0	0	1	5	63
学習・指導法	件数	29	20	2	2	2	4	4	63
卒業・進路	件数	44	17	2	0	0	0	0	63
養育・家庭生活	件数	36	23	2	1	0	0	1	63
学校生活 (対人関係等)	件数	31	24	4	0	1	0	3	63
いじめ・不登校	件数	39	21	0	1	1	0	1	63
その他	件数	37	18	4	2	0	0	2	63



(2) 特別支援教育に関する電話相談実績  
電話相談の対象別内訳

対象	件数	0 または未回答	1~100	101~200	201~300	301~400	401~500	501以上	計
保護者		19	21	8	5	0	2	8	63
本人		45	17	1	0	0	0	0	63
その他		22	30	3	2	0	1	5	63

## 2 教育相談において連携している主な機関

※(1)から3つ選択し、その連携内容・成果・課題を(2)～(4)から選択(3つまで)して回答

### (1) 機関名

	回答数
①発達障害者支援センター	0
②医療機関(医療センター等を含む)	17
③療育センター	11
④児童相談所(子ども家庭(相談)センター)	13
⑤園・学校等(保幼小中高義務教育学校等)	43
⑥特別支援学校	22
⑦大学・大学附属機関	7
⑧市町村教育委員会	24
⑨保健所・保健センター	1
⑩精神保健福祉センター	0
⑪ハローワーク(公共職業安定所)	0
⑫連携している機関はない	0
その他	6

計 144

※その他:県教育委員会、市町村教育委員会、千葉県子どもと親のサポートセンター、所管課、各市町関係課

### (3) 成果

	回答数
①他機関との円滑な連携が可能	21
②より専門的な相談の実施	35
③医療的な視点からの相談	23
④支援対象や支援内容の幅の拡大	27
⑤情報収集や情報共有	94
⑥就学相談の推進	24
⑦支援の継続が可能	23
⑧学校・地域に密着した支援	28
⑨教職員、所員、相談員等の専門性の向上	41
⑩就労率の向上	1
⑪子どもの理解及び対応方針の明確化	50
その他	

計 367

### (2) 連携内容

	回答数
①情報交換・情報共有	0
②医療的診断	11
③相談連携	78
④支援依頼	16
⑤検査依頼	5
⑥支援内容・方法の検討	51
⑦事例検討会	18
⑧支援会議	22
⑨指導・助言	28
⑩研修協力	24
その他	1

計 254

※その他:「教育相談における所見」の発行

### (4) 課題

	回答数
①関連機関との連携	11
②検討・協議時間の不足	43
③関連機関との日程調整	30
④個人情報保護を踏まえた情報共有と連携の在り方	39
⑤連携できる医療機関・診断機関の不足	13
⑥件数増加による対応	27
⑦意見調整(合理的配慮提供の際の合意形成含む)	23
⑧役割分担の明確化	27
⑨継続的な相談	28
⑩関係職員の専門性	35
その他	4

計 280

※その他:特になし、家庭支援、進学先への引継ぎ

## 3 教育相談の連携における課題について

※(1)連携における課題について選択肢から1つ選んで回答し、(2)に課題解決に向けた具体的な方策を記入

### ①他機関との連携の推進・強化 (13)

- ・教育相談後の継続的な支援や校内支援の充実に繋げるため、保護者や学校関係者(学級担任、特別支援教育コーディネーター等)との遠隔教育相談を行い相談結果の共通理解を図る。
- ・特に就学・進学に関するケースについて市町村教育委員会との連携の推進・強化
- ・医療機関と定期的に連絡会を実施(事例検討会を含む)
- ・当センターの取組の広報とともに、継続した支援のためには地域の特別支援学校との連携や確実な情報引継ぎが必要であり、定期的な情報交換を目指す
- ・適切な相談対応をするための情報収集と整理
- ・それぞれの機関がもっている情報共有のためのネットワーク整備
- ・多様化している教育相談に対応できるよう、連携可能な他機関についての情報を得る。
- ・不登校を主訴とした相談の背景には、発達や人間関係、コミュニケーションに課題を抱えるものが多いことから、個に応じた適切な支援を行うために関係機関との情報共有と連携を図りたい。
- ・該当校種の所管課へ速やかに情報提供をしている。相談者の希望があれば、所管課から学校への働き掛けを行っている。
- ・個別の事案に関して他機関との連携が必要となった場合に、必要に応じてケース会議を実施する等、関係者間の協力体制を強化する。

- ・ 迅速な情報共有および具体的な支援・介入方法の検討
- ・ 就学相談の充実に向け、情報連携を密に行っている
- ・ 発達障害者支援センターなどとの活発な意見交換と情報交流

#### ②相談担当者の専門性の向上（11）

- ・ 連携先の職員と合同で事例検討会を実施する
- ・ 教育相談担当者研修の実施、外部研修への参加による自己研鑽
- ・ 県障害福祉課・県教委特別支援教育課と連携しながら、発達障害に関する相談対応に必要な知識を深める。
- ・ 当教育センターでは、これから教育相談担当となる特別支援学校の教員に向けた研修を行っており、専門性の向上に向け、研修内容を充実させる必要がある。
- ・ スーパーバイザーとのケースカンファレンスの充実
- ・ 特別支援教育に関する相談員の専門性の向上及び学校現場の特別支援教育の現状の把握
- ・ 教育相談の内容が多様化してきているため、様々な視点、専門的見地からの対応が求められている。
- ・ 複雑で深刻な相談が増加する中、相談担当者の入れ替わりがあり、専門性の維持・向上や、継続した連携に課題がある。
- ・ 研修会等への参加
- ・ 学習会・事例検討会の実施(4にも記載)
- ・ 心理検査結果の分析と支援の方法、保護者との相談内容について、引き続き定期的に臨床心理士を講師として研修を行っていく。

#### ③理解啓発・情報発信の充実（11）

- ・ 当センターが特別支援教育に関する相談窓口であることの認識が広がっていないことが考えられる。ホームページ等での周知、関係機関への情報提供を行い、必要に応じて相談できる窓口の一つとしての認識を広げていく。
- ・ 年度初めに関係機関への周知とあわせて、児童生徒・保護者への周知を図る
- ・ 案内リーフレットの内容や文言を見直し、年度当初に各学校や関係機関にデータ送付したり、各種研修資料に組み込んでデータ送付したりしている。
- ・ 各種研修会での啓発活動、eラーニングコンテンツでの啓発動画の配信。
- ・ リーフレットやホームページ等での周知を行っている。
- ・ 相談案内を園・学校等へ配付
- ・ 本市HPでの就学に関する説明動画の充実、学校向けの啓発の充実 教職員の研修での理解啓発
- ・ 電話相談の電話番号をリーフレットやホームページ等で周知している。
- ・ リーフレットやHP等で情報発信を行っていく
- ・ 今年度、当センターのHPをリニューアルし、特別支援教育に、ついてより理解したり、情報を得られやすいようにした。
- ・ 連携が必要な相談がこない。引き受けられる回数に上限はあるものの、医療の視点での相談も可能であることを啓発する。

#### ④関係機関との連携のためのシステム作り（4）

- ・ 沿岸地区の教育相談資源の少なさをカバーするために沿岸地区相談室を設置し、教育センター所員が年8回～10回ほど沿岸地区の学校で教育相談を行っている。
- ・ 現在は、相談員が関係機関と不定期に協議を行っている。
- ・ 教育相談後の継続的な支援や校内支援の充実に繋げるため、保護者や学校関係者（学級担任、特別支援教育コーディネーター等）との遠隔教育相談を行い相談結果の共通理解を図る。
- ・ 特別支援学校における地域支援担当者の会議を実施し、地域の課題を共有したり、県の方向性を示したりし、課題解決に向けた協議等を行っている。

### ⑤地域の支援ネットワークの構築（3）

- ・学校の教育相談体制の中核となる教員を育成したり、市町の教育支援センター指導員への研修を実施したりすることを通して、地域との連携を図っている。
- ・保護者と本人の承諾を得て、保護者や本人の現状や願いに沿った支援方法の検討や情報共有を行う。
- ・特別支援学校における地域支援担当者の会議を実施し、地域の課題を共有したり、県の方向性を示したりし、課題解決に向けた協議等を行っている。

### ⑥学校等との連携（19）

- ・本人及び保護者、学校、該当の市町村教育委員会が主体となり、本人の理解や本人への指導・支援の方法を検討・実施していくためのケース会議を行う。
- ・児童生徒理解や事例を通して学ぶことができる教職員研修や出前講座、コンサルテーションなどを積極的に行っている。
- ・相談者の意向を整理して学校と情報共有を行い、学校体制で実施可能な取組について検討。
- ・学校等で行われるケース会議にセンター職員が参加し、支援方針を共有する。
- ・不登校の児童については、相談時の様子を随時、情報共有している。本人及び保護者の状況や心情について情報交換を行い、認識にずれが生じないように努めている。
- ・相談内容によって、迅速に当該学校と連携を図る
- ・関係市町村教育委員会担当指導主事との連携を密にすることで、必要に応じて学校に指導助言してもらえるようにする。
- ・学校と連携した教育相談事業の充実
- ・特別支援学校のセンター的機能との連携
- ・コーディネーター連絡会議において様々な情報発信や周知伝達する時間を設定している。就学相談においては管理職等にも伝えられるように研修資料を作成した。
- ・限られた時間の中で話し合うため、あらかじめ内容を吟味し、対応策を模索する。
- ・本センターで実施している教育相談事業についての理解
- ・学校説明会の実施やセンター研修等での周知
- ・拠点校通級指導教室の担当者を本センターの教育相談者として兼務して出務してもらっている。センターからの学校訪問は、拠点校の担当校を中心に行い、地域の学校支援の役割を担っている。
- ・管理職研修、オンデマンド研修等、学校の先生向けの様々な研修で教育センター教育相談室の周知を行っている。
- ・ケース検討会の実施
- ・研修会
- ・学校からの紹介で新規に相談を申し込んだ場合は、情報提供シートの提出を呼びかけ、情報を共有したうえで相談に臨めるようにしている。
- ・就学の手続きについて、園や学校とのさらなる情報共有を進めていく。

### ⑦その他（1）

- ・県内遠方地域における相談方法の工夫（オンライン相談等）

## 4 教育相談担当者の資質向上の取組について

※(1)取組について選択肢から1つ選んで回答し、(2)に具体的な内容を記入

### ①所内研修の実施（40）

- ・所内研修を年4回（事例検討3回、外部講師による研修1回）実施している。また、新任所員研修として、各種心理検査や教育相談の進め方などを年9回実施している。
- ・所内での事例検討会の実施と共に、関係機関と連携し、支援をつなぐための情報を得たり、必要な専門的知識の習得を図ったりするなどして資質向上に努めている。
- ・相談室での研修に加え、オンデマンド研修を取り入れている。
- ・研修を実施し、教育相談スキルの向上を図る。
- ・班内でのケース・カンファレンスや勉強会を行い、班員の教育相談に係る力量アップを図っている。

- ・ 外部講師による専門性向上に向けた研修会の実施
- ・ 外部の専門家を招聘し、年10回の事例研究会を行っている。
- ・ 様々な視点から教育相談担当者研修の内容を考え、企画・実施する。
- ・ 担当者が事例を提供し、事例検討を行うことで、相談の方向性を協議する。
- ・ 医師等の専門家による事例検討に関する研修及び相談ケースに関するSVの実施。
- ・ 事例検討を含めた教育相談に係る研修会を年11回実施。
- ・ 医師等による研修会や相談会の実施。
- ・ 公認心理師による検査実施に向けての研修の実施。
- ・ スーパーバイザーによる事例検討会やテーマごとの学習会等研修を実施している。
- ・ 教育相談等において、必要なスキル向上に向けての研修会の実施
- ・ 特別支援を専門とする大学教授や精神科医師を講師とする事例検討会を実施している。
- ・ 係内研修の実施(年間5~6回)
- ・ 所内研修会への参加
- ・ 当センターに派遣されている公認心理師から助言を受ける機会を作る
- ・ 連携大学の心理学専門の先生に月1回ペースでスーパーバイズを実施し、相談担当者としての専門性の向上を図っている。
- ・ 事例検討会を実施し、大学教授による指導・助言を受けている。
- ・ 定期的にグループ内でのケース検討会議を実施している。
- ・ 年間8回の相談員研修会を実施(大学教授による講義、カウンセラーによる講義・演習、相談事例の検討等)
- ・ 当教育相談部では、主にいじめ・不登校に対応する子ども育成担当と特別支援教育担当があり、合同で行う部内研修を週1回実施している。また、大学教授・医師等を講師として、困難な事例について検討するケース会議を年7回行っている。
- ・ 所員対象の相談活動の実施。
- ・ 部内における相談ケースに関する事例検討会の実施
- ・ 学習会・事例検討会の実施
- ・ 月一回の相談担当者会、月一回のケース会議、日々の情報共有により、支援の方向性・支援方法の検討を行い、専門性の向上を図っている。
- ・ 当センターで教育相談に携わる担当者は、適時スーパーバイザー(心理職)による指導・助言を受け、また相談対応のための知識習得のため、研修を実施している。
- ・ 教育相談センターとも協働して研修内容を充実させた。
- ・ 年度当初による研修  
ブラッシュアップするための研修  
学校や関係機関等の見学や理解研修
- ・ 外部講師を招いての研修会、育成担当者による若手相談員の育成
- ・ 大学教授等外部講師を招聘した研修の実施
- ・ 所内スタッフで実施する研修の実施
- ・ 心理検査結果の分析と支援の方法、保護者との相談内容について、定期的に臨床心理士を講師として研修を行っている。
- ・ 定期的なミーティングで心理士、教員等の教育相談担当者が互いに情報交換や研修を行っている。経験の浅い担当者については、複数対応したり、日々のOJTでフォローアップしたりしている。
- ・ 毎月1回~2回、相談室内で研修を行い、相談に係る最新情報を共有することや、ケース検討等を行っている。札幌市教育センターが教職員向けに行っている専門研修に参加している。
- ・ 各相談員の専門性に係る所内研修を実施
- ・ 定期的に相談部会議を開き、相談ケースの進め方や関係機関等の情報について研修を実施している。また相談ケースの受付については心理判定員を中心に受理会議を開き、相談の方向性を確認している。
- ・ 指導主事による研修、特別支援教育総合研究所の動画研修を実施している。

#### ②外部研修への参加（4）

- ・ 児童生徒の多様な課題に対応できるよう、継続的な学びの場を確保している。
- ・ 外部から有識者をSVとして招き、年間9回のケース検討会を実施した。また、外部講師による特別支援教育に関する研修を年間2回実施した。
- ・ 心理検査（WISC-V）の操作・検査方法及びそれを通じた教育相談についての研修への参加
- ・ 園・小・中・高・特支校の特別支援教育コーディネーター養成研修、専門研修、センター的機能情報交換会を実施し、県内の相談者のスキルアップを図っている。

#### ③相談員同士の情報交換（13）

- ・ 各所員が受けてきた研修内容を担当者同士で共有し、センターとしての相談の質の担保と向上を行っている。
- ・ 月に1回程度、教育相談担当者、特別支援教育係長、相談員による研修会を開き、情報の共有を行っている。
- ・ 生徒指導担当相談員と情報交換を行い、困難事例への対応を中心に検討し合う機会を定期的にする。
- ・ 定期的に個々の事例について報告を行うとともに、随時、相談時に活用できる教材を紹介し合ったり、相談時にフォローとして参加したりしている。
- ・ 相談手続きのマニュアル化を行い、相談の度に情報共有を行い、対応のスキルを磨いていく
- ・ 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修を年5回実施。情報交換・協議等を地域別・障害種別で行っている。
- ・ 関係機関や外部研修で得た知識の共有
- ・ 特別支援担当者だけでなく、小・中・高校籍の生徒指導担当や、SA、SSW、校長退職者のアドバイザーがチームで教育相談に当たっている。それぞれの専門的見地から、情報交換や新たな情報の共有などを日常的に行うようにしている。
- ・ 担当者会などの場で、情報交換に努めている。
- ・ 電話・来所による教育相談時における情報共有
- ・ 相談内容をデータ化し、どのような相談があったか確認できるようにしている。
- ・ 係の担当者も持っている情報（市町村教育委員会、学校園等）を集約、整理し、アプローチの方向性について検討している。
- ・ 相談電話中の協働体制、対応の方法の共有

#### ④関係機関との情報交換（2）

- ・ 就学相談について、市町教育委員会の就学担当者との情報交換や事例検討を通して、保護者により適切な助言ができるようにしている。
- ・ 関係機関の方と話す機会を作り、様々な職種の考え方を学ぶ。

#### ⑤その他（2）

- ・ 特別支援学校の教員を対象とした研修を実施するとともに、センター職員についても外部研修に参加する等、専門性の向上に努めている。
- ・ 定期的に教育相談担当者向けの研修講座や連絡会議を開催している。

## 5 協議テーマ「教育相談において今後求められること」に関する工夫や取り組み

- ・広域な地域特性を有する本道の特別支援教育に係るニーズに応えるため、6月～9月に全道14管内に所員が出向いて就学等に関する相談を行う「巡回教育相談」を実施している。各市町村において適切な学びの場の判断が行われるよう、相談の結果には必要な教育的支援を提供できる学びの場について、学級の種別とともに障がい種を記載している。
- ・多様化する相談内容に対応するために、療育センターの医師とのケース会議を行っている。
- ・各関係機関が互いの取り組みを知り、協議する機会を設けることにより、それぞれが役割を明確にしながら連携し、本人及び保護者や学校等への相談・研修支援につなげている。
- ・連携のコーディネーターの育成、情報共有の内容と個人情報として保護する内容の区別や理解。
- ・各市町の教育支援センター指導員の力量アップ研修を実施し、地域の相談体制の充実に取り組んでいる。
- ・保護者、本人からの相談は、内容によって、保護者、本人の理解を得た上で、相談員が所属学校の管理職、市町教育委員会等と情報共有を行い、支援内容や個別の教育支援計画、個別の指導計画等の確認、検討を行っている。
- ・多様なニーズに応えるためにも各関係機関との連携をより一層推進・強化している。
- ・相談内容に応じて、特別支援教育課として連携している医療機関（医師）に相談したり、大学機関の職員と連携し、相談事例について検討会を実施したりしている。
- ・当センターの教育相談は学校の教職員から特別な教育的ニーズのある児童生徒についての電話相談が多い。電話だけは解決しないケースが多いと考えられるので、電話をきっかけに、当該校に出向き、継続した教育相談を行い、行動改善につなげるケースがあった。
- ・診断やまとまりのいい言葉で子どもを理解するのではなく、子どもが感じていることや生きにくさについて、子どもや保護者に寄り添いながらともに考えることを大切にしながら相談を行っている。
- ・精神科の専門医にケースについての指導助言をいただき、相談員の専門性の向上を図る。
- ・園や学校に出向き、子どもの様子を見たり、担任等から話を聞いたりした上で、ケース会に参加する。
- ・保護者・子どもへのきめ細かな支援。小グループでの体験活動や学習会などを開催し、本人参加型の相談や、意見を引き出す工夫をしている。
- ・家庭養育や就学進路の相談増加、及び困難ケースへの対応に向け、引き続き所員が相談者のニーズに応じた教育相談ができる専門知識を高めることが今後の課題である。
- ・学校、各市町村（特に市町村の教育相談機関）の支援力向上にむけて、教育相談CO養成研修を充実させること、また、県立の教育相談センターとして県内の教育相談機能の強化にむけて、各市町村の教育相談体制について調査、その結果から出された課題を共有していくことを今年度は目指している。
- ・各機関（教育委員会や医療機関）との連携を密にし、支援できる体制づくり
- ・研修を通じて専門性の向上を図るとともに、関係機関との連携による相談体制を強化している。
- ・発達障害者支援センターによる研修の実施。
- ・相談者のニーズに沿う関係機関の紹介。
- ・学校生活や家庭生活において取り組みやすい支援方法や学習方法を提案することで、学校に密着した支援を目指している。
- ・特別支援学校の教員を対象とした、教育相談に関する研修について、特別支援教育課と情報共有を行いながら、内容の検討を行っている。
- ・関係機関との充実した連携のために、外部研修会等でのつながりにより情報交換を行っている。
- ・相談担当者の実践を通してのスキルアップ
- ・県内の様々な七つの相談機関との連携として、連絡協議会や合同の相談会（心のふれ合い相談）を実施したり、医療機関と教育機関（センター）、教育行政機関（県教育委員会）の三所による他職種連携（情報共有）を行ったりしている。
- ・センター的機能の充実を図るため、特別支援教育コーディネーター研修の講義等を各校の教育相談係も視聴できるようオンデマンド配信を行っている。
- ・来所相談を実施しているケースについて、電話による情報共有や訪問による支援検討や助言など、学校との連携を行っている。また、通常学級における学習の困難さに対応できるようにするため、読み書きに関する検査の実績を増やしている。
- ・今後は、より多様な相談（課題）への対応が求められる。そのために上記の取組（相談員研修会）による相談担当者の専門性の向上を図っている。また、来所相談では、専門家（大学教授、医師等）から専門的な助言を受けられるようにしている。
- ・外国籍児童生徒の教育相談の増加に対し、学校や家庭に当該児童生徒の支援方法を助言する。
- ・教育相談に関わる相談員を外部の専門家に依頼したり、内容によっては学校籍の主事が対応したりしている。
- ・県内の各市町村教育委員会が主催して行う相談会（合計113回）に相談員として参加している。支援がつながるよう相談内容は各教育委員会等と共有する。
- ・教育相談担当者間で相談事例を適宜共有し、相談内容の多様化に対応できるようにしている。
- ・各学校、各市町村教育委員会と連携し、連絡会議等で情報共有、事例検討を通して支援に役立てる。
- ・教職員の対応力の向上を目指し、学校現場でのニーズに合わせた学校単位型研修会や出前研修会を実施している。また、相談担当所員の専門性向上のため、所員対象の相談活動を実施している。
- ・教育相談研修会を年に6回実施している。医療、福祉、教育の関係者が一堂に会し、事例検討会や学習会を実施している。
- ・保護者の意向を確認の上、学校との連携及び外部機関等とのより綿密な連携、情報共有
- ・必要に応じた情報の共有
- ・各学校での校内支援体制の整備、教育相談の充実に向け、教育相談に関する研修講座の開設

- ・ 個人情報に留意しながら、相談内容によって学校や専門機関との連携を図り、児童生徒を取り巻く環境の改善・整備に役立てていくこと
- ・ 相談者の多様な背景やニーズに対応するため、様々な相談窓口（電話・メール・面接・LINE）を設けている。その中で他機関との連携が必要となった場合は、適宜情報収集や情報提供を行なっている。また相談員のスキルアップを図るため、専門家によるスーパーバイズ及び研修を定期的実施している。
- ・ 総合教育センターの相談室では相談者のニーズに応じられるような相談体制を見直し改善を図ろうと思っている。
- ・ アセスメントの種類の見直しや検討 本人に合った学び方等に関する見立ての必要性
- ・ 特別支援学校での取組として、サポートチーム会議を月1回程度開催し、地域の学校に在籍する支援の必要な子ども達への取組を専門の見地（医師、心理士等）からアドバイスしている。
- ・ 5歳児健診も始まり、今後教育相談件数が増えてくると考えられるため、相談の質を高め、量に対応できるように準備しておく。
- ・ 学校におけるポジティブ行動支援の実践を拡充するための、課内相談員および学校教職員への研修
- ・ 社会の急激な変化による相談内容の多様化と深刻化に対応するため、福祉分野の専門家を招聘した研修の実施や市町村の福祉部局との連携への模索
- ・ 学校・園から要請があれば、困り感を抱える子どもへの支援や保護者への関わり方、支援に向けた校内体制等について、関係する教職員と指導主事が一緒に考える「学校コンサルテーション」を行っている。
- ・ 就学相談や教育相談等の個別対応だけでなく、子供たちの在籍する学級あるいは学校全体に向けて特別支援教育のアドバイスがほしいというニーズを受け、今年度より学校支援チームを立ち上げている。授業参観後、学年毎の話し合い、校内研修等でフィードバックし、効果を上げている。
- ・ 教育相談や学校等支援のケースを市町村教育委員会と共有し、学校や市町村の実情や意向等を踏まえながら支援に取り組んでいる。
- ・ 関係機関と情報を共有している。
- ・ オンライン等、多様な方法で教育相談を行っている。
- ・ 教育センターに来所する子どもたちが、学校で十分な支援を受ける前に、相談に訪れるケースが多い。学校での1次的対応から教育相談室での相談を通して、さらに支援を実施し、その成果や課題を共有しながら、子どもたちのより良い支援の方法を考えていくことが求められる。そのため、学校との連絡や、各種研修会で改めて学校での1次的支援の重要性を確認しているところである。
- ・ 所管外
- ・ 基礎的環境整備、合理的配慮、学びの場の検討、本人のセルフアドボカシーの力を育てる指導支援について学校支援を行うこと
- ・ ケースごとに担当者で事前事後のカンファレンスを実施
- ・ 学校及び保護者へのフィードバックと情報共有を実施
- ・ 相談者の希望に応じた学校連携
- ・ 不登校や就学相談の件数増加に伴い、他機関との連携を強化していく必要がある。そのため連携会議を開催し、情報共有をしながら相談を進められるようにしている。
- ・ 外国人児童生徒の教育相談の増加に対し、学校や家庭に当該児童生徒の支援方法を助言する。
- ・ 傾聴の姿勢を大切にしながらも、伝えるべきこと（就学の流れ等）は紙面を活用して正確に伝える。

第 2 分科会

研 修

## 第2分科会 研修に関する事情聴取の集約結果

### 主題 特別支援教育を担う全ての教師の専門性向上に向けた研修の取組

#### 1 特別支援教育に関する研修について、工夫していることと課題について

※選択肢から選んで回答(3つまで複数選択可、未実施の内容については無回答)

##### (1) 工夫していること

	回答数
①演習と協議を実施	57
②授業参観や実践発表実施	20
③事例検討会の実施・工夫	15
④コースやテーマの分化	10
⑤該当職務の新任者の研修実施	32
⑥レベルアップ、ステップアップ研修の実施	17
⑦地域・地区別の研修実施	4
⑧校種別の研修実施	14
⑨異校種間の実践交流	5
⑩現状の把握と課題の焦点化	5
その他	4

計 183

※その他:集合形式の研修機会の拡充、研修観の転換を踏まえた研修の形式や内容、イントロダクションとリフレクションの充実、管理職向けの研修の実施

##### (2) 課題

	回答数
①ニーズに応じた講義・演習内容の設定	35
②受講対象者の力量差	28
③研修者のニーズに合った研修体系	24
④レベルアップ、スキルアップ研修の実施	13
⑤幼稚園、高校対象の研修実施	8
⑥受講者増加に伴う効率的運営	24
⑦研修内容について地教委等との調整・連携	6
⑧受講成果の地域、各校での還元についての評価	26
⑨指導者・講師の確保	15
その他	3

計 182

※その他:本道の広域性を踏まえた効率的な研修の実施、受講者の負担軽減と効果的な学びの両立、研修時間の確保、インクル推進に向けた内容

#### 2 R6年度以降に新設した特別支援教育にかかわる研修講座について

※(1)講座名について入力し、(2)内容と(3)実施方法については選択肢から選んで回答(未実施の内容については無回答)

##### (1) 講座名

- ・特別支援学校授業改善推進研修講座
- ・実習助手コース
- ・自立活動の指導実践研修会
- ・インクルーシブな学校を目指す研修講座
- ・視野を広げる特別支援教育研修講座
- ・教科別 指導力の向上について
- ・農業福祉連携ビジョン
- ・通級による指導の在り方～校内体制づくりからはじまる支援～
- ・新任高等学校特別支援教育コーディネーター研修
- ・自立活動研修講座【基礎コース】
- ・自立活動研修講座【実践コース】
- ・インクルーシブな学びを支える通常の学級の授業づくり
- ・みんなの特別支援教育講座
- ・合理的配慮とセルフアドボカシーを支える取り組みについての講座
- ・特別支援教育実践講座【自立活動】
- ・特別支援教育の視点を生かした校内組織づくり
- ・通級による指導担当者のための研修講座
- ・子どもの思いや願いに応える自立活動の指導研修講座
- ・授業づくり研修講座(特別支援学校)～数量の基礎～<基礎講座>
- ・授業づくり研修講座(特別支援学校)～単語構成の学習～<基礎講座>
- ・PBSコンサルタント養成研修
- ・子どもの実態把握から指導・支援の手立てへ
- ・通級指導教室に通う児童生徒の理解と支援講座
- ・通級指導教室担当教員研修
- ・高等学校における特別支援教育スキルアップ研修
- ・すべての子供のよさをみんなで伸ばす第1層支援の充実
- ・特別支援教育オンデマンド研修
- ・管理職のリーダーシップ 児童生徒にとって安心安全な学びの場づくり
- ・通常の学級の担任を対象とした特別支援教育基礎講座
- ・自立活動の授業づくり講座
- ・重複障害学級の授業づくり講座
- ・(Web)自閉症情緒障害特別支援学級講座B
- ・(特)キャリア教育推進講座
- ・強度行動障害のある児童生徒への対応講座

- ・特別支援教育の視点を取り入れた体育指導講座
- ・キャリアアップ研修【子どもの心の受け止め方】
- ・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり講座～通常の学級における授業のユニバーサルデザイン～
- ・学校で取り組む特別支援教育研修会～特別支援教育を担う教員の専門性の向上に向けて～
- ・レッツ!ポジティブ行動支援
- ・特別支援教育セレクト講座
- ・重複障がい学級の指導～コア・スクールで基礎を学ぼう～
- ・インクルーシブ教育研修会
- ・特別支援教育研修会Ⅱ①〈応用編〉
- ・特別支援教育研修会Ⅱ②〈応用編〉
- ・特別支援学級・特別支援学校講師等研修講座
- ・配慮を要する児童生徒への支援講座【ICT活用編】
- ・自立活動指導力向上研修
- ・障害のある子どもの学びを支えるICT活用研修
- ・特別支援学級指導充実研修
- ・通常の学級で学びにくさの壁を壊そう
- ・インクルーシブな教育の推進に向けて私たちができること
- ・困難さを抱える子どものケース会議の進め方
- ・特別支援教育における子どもの特性に応じたICT活用
- ・特別支援学級主任研修
- ・特別支援学級 キープラーニング
- ・肢体育成ブロック全体研修会
- ・非常勤介助員研修会
- ・支援教育支援員研修会
- ・支援教育コーディネーター研修講座(増設)
- ・小・中学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修
- ・通常学級における多様な学びを支える基礎講座
- ・発達障がいのある子どもの理解と特別支援学級の授業づくり
- ・明日からの支援に生かす!特別支援学級の授業・通級による指導担当のための実践講座
- ・特別支援学校センター的機能担当者実践講座
- ・学びが変わる!知的障がいのある子どもの理解と授業づくり講座
- ・「個別の教育支援計画」でつなげる支援・つながる支援
- ・特別支援教育教室参観講座
- ・通級指導教室教員研修会
- ・拠点校通級初担当者研修
- ・情緒障害全体研修会、言語障害難聴担当者研修
- ・発達障害研修
- ・アセスメント-算数障害-
- ・アセスメント-読み書き障害-
- ・事例検討研修
- ・病弱特別支援学級授業づくり研修
- ・聴覚・難聴特別支援学級授業づくり研修
- ・広げよう!通常の学級における特別支援教育
- ・新規開設通級指導教室担当教諭連絡会議
- ・特別支援教育における進路支援に係る研修
- ・特別支援教育【Ⅰ】(障害のある児童・生徒の理解と二次障害の予防)
- ・特別支援教育【Ⅰ・Ⅱ】(自立と社会参加)
- ・医療、福祉、園・学校との連携
- ・算数に困難さのある子どもの理解と支援
- ・愛着障害と発達障がいの理解と支援
- ・特別支援教育におけるICT活用 発展講座
- ・心理検査法・WISC-V(応用)
- ・特別支援教育選択研修
- ・特別支援教育実践研修
- ・特別支援学校授業づくり
- ・特別支援コーディネーターマネジメント研修
- ・肢体不自由担任講座
- ・配慮を要する児童生徒に関する機関研修

## (2) 内容

	回答数
①特別支援学校対象の専門的研修	11
②特別支援学級や特別支援学校対象の専門講座	12
③特別支援教育全般の専門研修	29
④特別支援教育の今日的課題	11
⑤心理検査の実施と解釈	1
⑥通常の学級における特別支援教育の観点からの授業づくり	7
⑦幼稚園や高等学校に特化した研修講座	2
⑧その他	16

計 89

### ※その他の内容

- ・通級による指導担当者対象
- ・PBSに関する専門的研修
- ・幼小中高等学校対象の特別支援教育全般に係る研修
- ・管理職に特化した研修
- ・対象を管理職、Co等に絞って専門性の向上を目指す専門研修
- ・特別支援教育コーディネーター対象の専門研修
- ・拠点校通級専門研修
- ・支援教育への理解研修
- ・通級担当者向けの専門的研修
- ・コーディネータ専門研修
- ・専門分野基礎研修
- ・中学校の特別支援学級担当者向けの進路支援に係る研修

## (3) 実施方法

	回答数
①集合による研修	53
②オンライン会議システムでの同時双方向型	19
③同時双方向とオンデマンドの組み合わせ	2
④動画配信サービスを活用したオンデマンド	4
⑤その他	0

計 78

### ※その他の方法

- ・集合と同時双方向型の同時併用（ハイフレックス研修）
- ・オンデマンドと集合型を組み合わせた3日間分割の形式
- ・事前課題を含めた集合研修
- ・対面とオンライン双方向型
- ・①と②の組合せ
- ・研修内容により、集合とオンラインを使い分ける
- ・事前課題を含めた集合研修
- ・集合+オンライン（2日間）
- ・集合とオンデマンド
- ・1回目オンライン、2回目集合のインターバル研修
- ・実技

3 オンラインを活用した特別支援教育に関する研修について  
 ※選択肢から選んで回答(未実施の内容については無回答)

(1)実施方法

	回答数
①オンライン会議システムでの同時双方向型	54
②同時双方向とオンデマンドの組み合わせ	15
③動画配信サービスを活用したオンデマンド	39
④その他	8

計 116

※その他の実施方法

- ・集合と同時双方向型の同時併用(ハイフレックス研修)
- ・オンデマンドと集合による研修の組み合わせ
- ・1回目オンライン、2回目集合のインターバル研修
- ・集合研修と同時双方向型のハイブリッド
- ・当センター作成動画によるオンデマンド
- ・受講者参集で講師はオンライン講義
- ・集合研修とオンライン研修

(2)(上記で挙げたオンライン研修)実施内容(複数回答可)

①講義・講演	112
②協議	46
③演習	48
④事例検討	5
⑤体験	1
⑥ロールプレイ	0
⑦発表	17
⑧事前調査を実施	2
⑨その他	1

※その他の実施内容

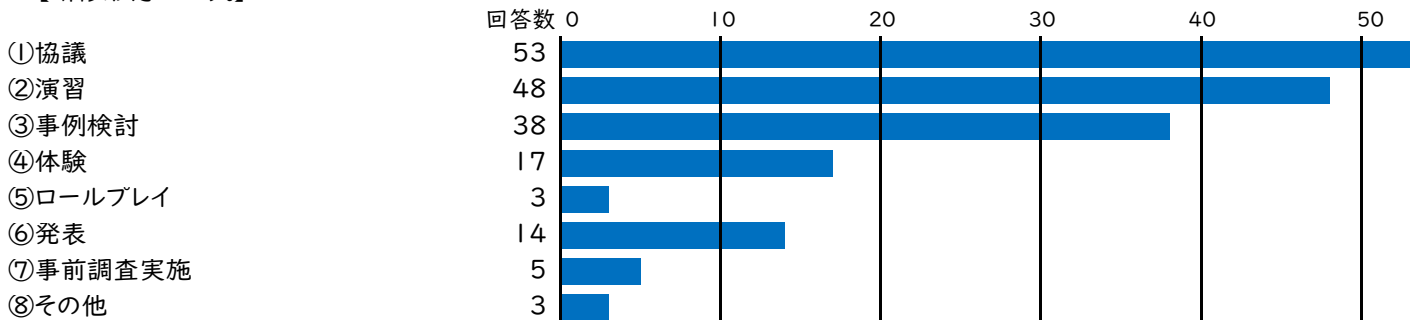
- ・事前研修として動画視聴を行う

#### 4 研修の効果的な在り方と受講者の自主的研修や校園内研修の充実に向けての支援について

※選択肢から選んで回答(未実施の内容については無回答)

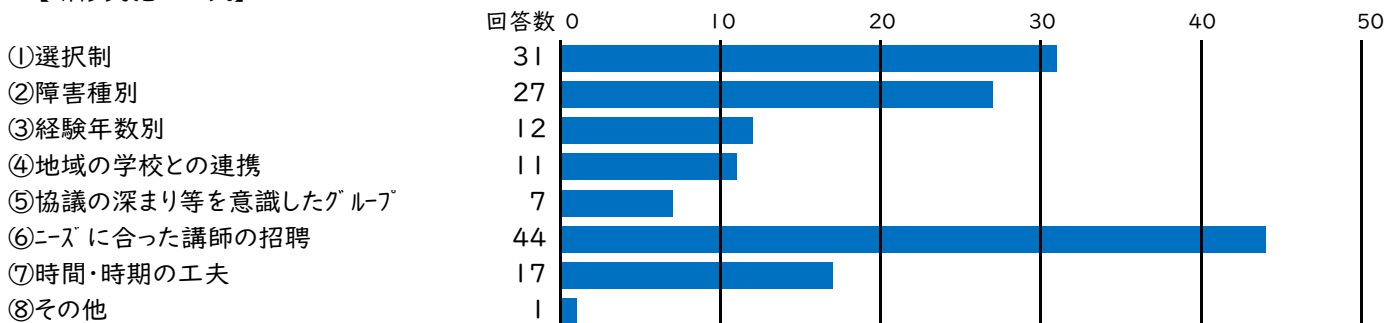
(1) 研修の効果的な在り方(講座の持ち方等の工夫について効果的と考えるものを各項3つ選択)

##### 【研修形態の工夫】



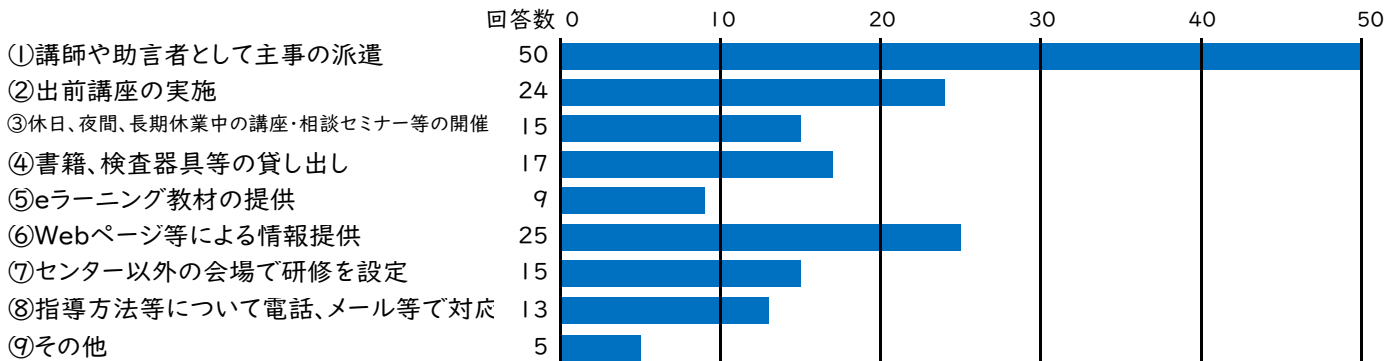
※その他:探求のプロセスを重視した受講者が主体的に学ぶ研修、アウトリーチ型の研修、講義動画視聴と確認シートの記入、オンデマンド教材の充実、研修用動画の配信、オンデマンドと集合の組み合わせ、受講者による研修会のサポート、意見交流、要請訪問対応

##### 【研修実施の工夫】



※その他:ICTやクラウドの活用による対話的な学び、受講者の気付きや思考を促す問いの設定

##### 【支援方法(自主的研修や校園内研修の充実に向けての支援)】

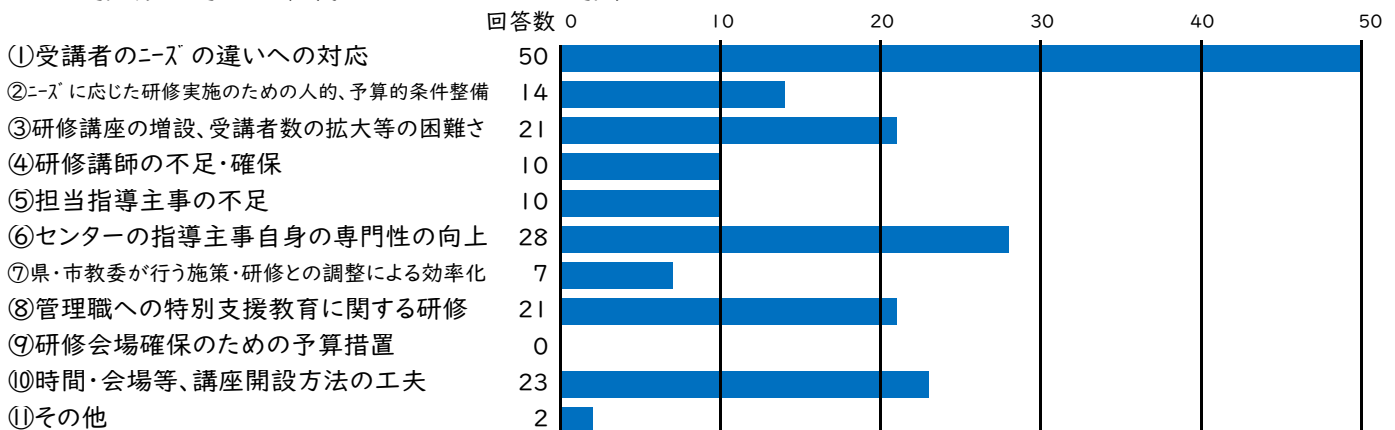


※その他:指導方法等について遠隔会議システムで対応、特別支援教育研修動画コンテンツの活用、オンデマンド教材の配信  
受講者による研修会のサポート、研修用動画の配信

#### 5 特別支援教育に関する研修を企画・運営するにあたっての大切にしている視点について

(1) 大切にしている視点

※選択肢から選んで回答(考えられる主なものを3つ選択)



※その他:関連のオンデマンド研修の充実

## 【大切にしている視点の具体的な内容】

### ①受講者のニーズの違いへの対応

- ・ 学校種や担当している役割等に応じた研修の設定
- ・ 経験の浅い教員には、演習やワークの時間に研修指導主事が寄り添う。
- ・ 校種に応じた研修講座の構築
- ・ 研修企画の意図が伝わるような、講座名称や受講対象者の区分け等の工夫
- ・ 各校の初任者の人数に応じた配慮、受講する講座の選択制
- ・ 様々なニーズに合うように選択研修講座を構築する。
- ・ 基礎から専門的な内容まで選択できるようにしている。
- ・ 受講者のニーズを把握するための事前レポートの提出
- ・ 校種や学びの場によるニーズの違いに応じ、各課題を検討して研修を企画、運営
- ・ 受講者の経験値に応じた講座設定、オンライン講座の後日配信、見逃し配信等
- ・ 研修後の振り返りフォーム等を活用した受講者のニーズの把握
- ・ 受講者個々の問いを立てる時間、及び振り返りの時間を十分に確保する。
- ・ 事前及び事後アンケートによりニーズや成果、課題を把握
- ・ 研修後アンケートを参考にし、受講者のニーズを把握する。
- ・ 障害種別や経験年数に応じた研修を実施
- ・ 経験年数、障害種別、校種、職務の違い等への対応。
- ・ 経験年数によるニーズの違いを踏まえ、講座内容を検討すること
- ・ 研修アンケート等で受講者のニーズを把握する。
- ・ 障害種及び校種に応じて必要な情報が提供できるような研修設定
- ・ 経験年数や校種、障害種、学校規模といった背景なども考慮した内容や班編成を考慮
- ・ 学級種、地域、研修テーマ等による分科会の設置
- ・ イントロダクション(意味付け)、リフレクション(価値付け)の時間の設定
- ・ 事後アンケートを計画に反映。事前アンケートで受講者のニーズ把握。
- ・ アンケート等でニーズを把握し、研修計画に反映している。
- ・ アンケートによるニーズの把握と研修の改善
- ・ リフレクションアンケートの実施、研修終了後の追跡調査の実施
- ・ 受講者から得た振り返りを次年度に反映
- ・ 講座開始前にニーズを確認、講座内で話題にしたり、個々に対応したり等、補足
- ・ 研修案内の仕方 どの校種においても困っている内容の精選
- ・ 校種による必要性を鑑み、重点的な内容の取入れ
- ・ 研修後の振り返りアンケートによる検討
- ・ 選択研修を含め、受講者のニーズを広くとらえるようにしている。
- ・ 受講者が研修内容を選択して受講できるようにしている。
- ・ アンケートの声を反映した、研修内容の整備
- ・ 研修対象者に則した内容
- ・ 教職員の資質向上の指標に応じて企画する
- ・ 研修終了後の受講者へのアンケート結果を基にして、次年度の研修や講座の作成に生かしている。また、専門講座を習熟度別(基礎・発展・充実)に分け、受講者のニーズに合わせて受講対象を絞って開催している。
- ・ 障害種別による選択研修を取り入れている
- ・ 受講者の経験年数や抱えている悩み等に応じた対応ができるよう工夫
- ・ 受講者の様々なニーズに応じた研修のあり方
- ・ 自校における対象児の実態の違い
- ・ 育成指標やステージを示したり、できるだけテーマを具体的にしたりする。
- ・ 受講者が求めていることにどれだけ応えられるか。どうバランスを整えていくか。
- ・ 経験年数の浅い受講生に配慮したグループ編成、実践交流の機会確保等
- ・ 増える特別支援担当者の基礎知識の向上

## ②ニーズに応じた研修実施のための人的、予算的條件整備

- ・ 先進的取組を行っている著名な講師の招聘
- ・ 外部講師への依頼
- ・ 外部講師招聘
- ・ 受講者のニーズを把握し、次年度へ向けた講師への依頼、費用弁償の確保
- ・ テーマ選択制にする、年間を通した連続講座とするなどの運用の工夫
- ・ ニーズに対応した専門的知見のある講師を依頼している。
- ・ 集合型とオンラインなど、人的、予算的條件に合った研修形態の検討
- ・ 受講者のニーズに沿った講師招聘を検討
- ・ 講師の謝金や交通費等の確保をすることで集合研修の実施
- ・ 受講者のニーズを把握した最新の特別支援教育に関する研修の実施
- ・ 特に新規の特別支援学級担当教員が、より実践的な内容を学ぶことができること
- ・ 有益な研修実施のために講師の招聘のための条件整備を実施
- ・ リモート型の実施
- ・ 研修の目的を含め事前に研修講師と念入りに打ち合わせを行う。

## ③研修講座の増設、受講者数の拡大等の困難さ

- ・ 集合研修の会場を、センターに加え、道内6箇所を設定し研修講座を実施
- ・ 研修ニーズに応じられるように受講人数の上限を拡大
- ・ 継続的に必要な内容と、喫緊の課題に対応する内容に整理して、年度毎の研修を企画
- ・ 研修講座のPR(校長会や指導主事研究協議会、巡回相談員連絡協議会等にて)
- ・ オンライン講座の拡大
- ・ ニーズに応じて人数を増やしたい講座がある。会場との兼ね合いを検討している。
- ・ ニーズの高まりはあるが、研修によっては受け入れ人数に限界がある。
- ・ 研修講座の内容等の周知の工夫を図り、受講者の拡大を図ること
- ・ 受講者数増に応じた所内オンラインシステムの活用
- ・ 研修運営側の負担等を考慮した増設を検討。講座周知の工夫
- ・ オンデマンド研修の充実、Webページ等による情報提供
- ・ オンライン研修の実施
- ・ 小グループによる協議の前に担当者同士で打合せを行っている。
- ・ 基本事項をオンデマンド化し、事前課題として設定
- ・ オンデマンド研修の充実や講座内容の精選
- ・ 特別支援教育に係る研修のニーズの高まりに応えることができるようにすること
- ・ 受講者のニーズに合わせた研修の構築や定員の適正化を図る。
- ・ より多くの方に受講してもらい特別支援教育を推進すること
- ・ 研修に係る予算の獲得
- ・ 受講者数に応じた研修場所の確保、オンデマンドの実施
- ・ ブレイクアウトルームを活用し、研修者同士の情報共有や交流の場を設定。

## ④研修講師の不足・確保

- ・ 受講者のニーズ(実践的・具体的)に合う講師の選定
- ・ 専門性を有する研修講師について情報を得たり、推薦してもらうようにしている。
- ・ 大学教員、現職教員、医療、福祉関係者等、ニーズに応じた講師の確保
- ・ 受講者のニーズに応じた講師の選定
- ・ 障がい種に、校種に応じて研修を実施しているため多くの講師を必要とする。そのため研究機関や社会福祉事業団等と連携して、経験豊富な講師を確保している。
- ・ 受講者のニーズに沿った講座構築に向け、講師招聘、内容や日程を計画・調整
- ・ 多くの講座があるため、前年度から現場講師に打診をする
- ・ 実践発表候補者を複数名確保し、早期に講師依頼を実施する。
- ・ テーマに合った指導が可能な講師への依頼。内容についての十分な事前打合せ。
- ・ どの校種の教員にも特別支援について学ぶ機会を確保している

#### ⑤担当指導主事の不足

- ・センター指導主事は相談業務で負われてしまうため、スケジュールリングを共有
- ・少人数での運営を実現するための業務の効率化と丁寧な事前準備
- ・オンデマンドやオンラインの活用、教員による校内研修実施に使える資料の提供

#### ⑥センターの主事自身の専門性の向上

- ・担当内の会議で研修や研修会の伝講を行い、知識やスキルの共有を行う。
- ・教育資料室の活用や公開講座等への参加
- ・県内における特別支援教育に関する課題を把握し、研修内容を充実させる。
- ・研修等への参加及び積極的な情報収集
- ・情報収集、研修会等への参加。
- ・研修講座の計画や講義等の内容について所内で検討、協議
- ・各指導主事の専門性をいかした担当割り振りと専門性の向上のための自身の学び
- ・各関係機関企画の研修会への参加
- ・自分の経験していない領域での指導や、コンサルテーションの技術について
- ・国の動向等、最新の情報を得ながら、専門性の向上を図ること
- ・研修への参加や書籍等での自己研鑽を積む。
- ・研修等への参加
- ・研修機会の確保
- ・事前ヒアを綿密に行う中で、勤務経験のない校種の教育課程等の理解を図っている。
- ・自主的に研修会等に参加し、研鑽を積む。
- ・他校種の訪問に同行。特給研等のセミナーやオンライン研修の積極的受講。
- ・センター内での他校種の講座受講、他機関の研修受講
- ・所員研修の実施、外部機関の発表会やオンライン研修への参加
- ・学校支援や部内研修等を通じた研さん
- ・研修を担当する指導主事が講義の内容を深く理解するようにしている。
- ・教育委員会内の研修や自主研修に参加した内容を主事同士で共有
- ・様々な研修会等に参加し、知見を深める
- ・校内研や学校訪問などを積極的に行い、現場のニーズの把握を積極的に行っている
- ・特別支援教育に関する最新の情報を取得することなど
- ・セミナーや学習会への参加
- ・書籍による自己研修やオンライン研修等の積極的な受講
- ・他教科担当の指導主事の特別支援教育に関する意識の向上
- ・書籍や研修、他課との連携を通して、見識を広げている。

#### ⑦県・市教委が行う施策・研修との調整による効率化

- ・特別支援教育推進室（県教委）との連携、情報共有
- ・教員の経験年数、課題に応じた研修会の企画について前年度中に共有・調整
- ・県の方針を受けて、研修内容の工夫
- ・県教委と打合せを行い、県の施策を反映した研修を実施している。
- ・綿密な情報交換
- ・県が目指すインクルーシブ教育システムの理念の周知
- ・受講者にどのような学びが必要なのか、特別支援教育課と情報共有をする

#### ⑧管理職への特別支援教育に関する研修

- ・多様性を包括した学校経営を行っている校長を講師に招聘し、見識を広める。
- ・特別支援教育について理解を深め、校内支援体制の構築についてリーダーシップを発揮できる
- ・管理職研修で特別支援教育に関する研修を実施
- ・公開授業訪問時に管理職同席のもと研究協議を実施し、管理職への理解を図る
- ・県立学校新任教頭及び新任事務長研修での特別支援教育に関する研修実施

- ・ 児童・生徒観の転換、校内支援体制の充実等今日的課題を目的とした協議、演習の工夫
- ・ 管理職向け研修の実施、管理職向けハンドブックの活用
- ・ 管理職やCo等を対象にチーム支援について演習し、実践に活かせるようにする。
- ・ 新任教頭研修での講座、新任校長研修での現職校長による実践発表の一部として取り上げてもらう
- ・ 新任の管理職研修における特別支援教育に関する講義の設定
- ・ 新任の管理職研修全てに特別支援教育に関する研修を実施
- ・ 新任管理職研修において特別支援教育の課題への対応について
- ・ 特別支援教育コーディネーターの研修の受講受け入れ
- ・ 内容、講師、他課との連携
- ・ 特別支援教育を経験していない管理職の知見を深めることができるようにすること
- ・ 特別支援教育実施の責任者として特別支援教育に関する認識を深める
- ・ 管理職向け研修に特別支援教育を必ず位置付けて実施
- ・ 管理職の特別支援教育の理解推進
- ・ 特別支援教育に対する理解の推進を図り、組織で支えていく学校体制づくり。
- ・ 管理職研修を指名研修にすることですべての管理職に必要な情報を伝達した
- ・ 当センターの管理職研修に特別支援に関する研修の内容を盛り込んでいる。

#### ⑨研修会場確保のための予算措置

#### ⑩時間・会場等、講座開設方法の工夫

- ・ 研修ニーズと効率的な研修に対応した研修の時期や時間、研修の形態の設定
- ・ 参加人数に応じて広い会場を借用して実施
- ・ オンデマンド研修の検討
- ・ 受講しやすい時期、研修時間、研修方法で講座を構築する。
- ・ 指導主事が受講者の学校を訪問してアウトリーチ型研修の実施
- ・ 放課後1.5hの研修やオンライン講座の見逃し配信等
- ・ 専門研修をできるだけ夏季休業中に開催する。
- ・ 勤務地等を配慮し研修しやすいようにオンラインやオンデマンドの研修を設ける。
- ・ 同内容の複数展開を含めた適切な研修日程と研修会場の検討
- ・ オンデマンドやe-ラーニング等を活用した研修の実施
- ・ 受講者の負担、受講しやすい時期や場所を考慮した実施形態や内容の工夫
- ・ インターバル研修や地域別研修の実施
- ・ 受講者数に応じた研修場所の確保、オンデマンドの実施
- ・ 講義中心の研修についてはオンライン研修を中心に運営している。小グループでの協議、交流等が必要な研修では集合研修で実施している。会場は基本的に教育センターだが、研修内容によって講師所属校が会場となることもある。
- ・ 半日単位で区切ったり、オンラインで行ったりすることで受講しやすくする。
- ・ 遠方の教員も受講しやすいよう、ライブ配信型の研修を取り入れる。
- ・ 地域や所属校で受けられる研修（同時双方向やオンライン）の実施。コア・スクールの会場借用。
- ・ オンライン参加を可能とする
- ・ オンライン、オンデマンド
- ・ 集合、オンライン、オンデマンド等、ねらいに合う方法で研修を行っている。
- ・ 受講者が参加しやすい時期や回数の設定
- ・ 受講者のニーズや必要な専門性等の習得に応じて、時間や会場、講義形式を決定
- ・ テーマに応じて時間（2か3時間）や方法（参集かオンライン）を考える。

#### ⑪その他

- ・ 関連のオンデマンド教材の充実（研修内容に合わせた事前学習をオンデマンド教材で配信する。）
- ・ 特別支援教育ルームを活用し、教材や教具を体感したり、指定校のモデル授業動画を用いたりして、実践的な研修を行っている
- ・ 研修内容に合わせた事前学習をオンデマンド教材で配信する。

## 6 ホームページの活用と公開コンテンツについて

※選択肢から選んで記入

### (1) 貴機関のホームページにおける「特別支援教育に関する研修コンテンツ」の有無

①ある	57	未回答	0
②作成中	0		
③検討中	1		
④作成予定なし	5		

### (2) 公開している（公開予定の）「特別支援教育に関する研修コンテンツ」（複数回答可）

①ガイドブック等の冊子	51
②プレゼンテーション資料	2
③講義の動画	2
④デジタル教材（ダウンロード可）	0
⑤教材・教具のデータベース	1
⑥学習指導案のデータベース	1
⑦その他	1

※その他:e-ラーニングコンテンツ、個別の教育支援計画の様式等、自立活動目標・内容設定シート、通級指導教室連携シート等、指導・支援の手立て集、授業動画の限定公開、個別の指導計画等各種様式例

## 7 協議テーマ「教員の専門性向上に向けた研修の取組み」に関する工夫や取組み

- ・当センターが実施主体である研修においては、参加者を主語に、研修を通じた気付きや取組の変容が得られるよう、説明や資料の内容について理解を深める場面や、自身の理解や考えなどを基にした受講者同士の対話を意図的に設定するなど、研修の形式や内容の充実を図っている。
- ・特別支援教育担当となった教員への3年間のステップアップ研修の実施。
- ・通級による指導担当教員養成研修の実施。(3か月間)
- ・全ての研修終了時に今後取り組みたいことを記入するリフレクションの実施。
- ・研修では、講義と協議のバランスを考えて実施し、受講者が主体的・対話的で深い学びになるように努めている。また、自主的に学べるように研修コンテンツも作成し、特別支援教育を学べる機会を提供している。
- ・指導主事の専門性の向上  
(特別支援教育担当と他の担当とが連携した研修実施による、互いの専門性の共有・向上)
- ・研修の細分化  
(特別支援学級新担当者研修を本採用者対象と臨時的任用対象で分けて行っている。また特別支援学校の新担当者研修も実施。)
- ・研修講師の依頼  
(基本的上限を3年として様々な教諭に研修講師をしていただき講師としての育成にも取り組んでいる。)
- ・協議の充実  
(講義で終わりにせず周りと対話をする中で考えを整理、深める時間を設定している。)
- ・教職員のニーズに合った研修講座を構築する。
- ・育成指標を基にした研修内容の実施および研修形態の工夫により、学びの深まりにつなげている。
- ・インクルーシブ教育システムの推進を目指して、異校種交流する研修を実施している。
- ・幅広いニーズに応えるため、基礎から専門的な内容まで受講できる講座を準備している。
- ・特別支援学級授業づくり研修講座、特別支援学校授業力アップ研修講座  
→前期は受講者のニーズを把握した上で講義及び事例検討の協議を行う。後期は指導主事が学校に出向き授業を参観し、振り返りを行う。
- ・特別支援教育に関する様々な課題、受講者の多様なニーズに対応できる研修講座を開設するとともに、オンライン型、オンデマンド型の研修も用意し、多くの方が受講できるようにしている。
- ・各学校、地域の教育研究団体からの要請に応じ、ニーズに沿った講義及び演習を行うことで、専門性の向上を行っている。
- ・オンライン研修で基礎を学び、実践を経た後、集合研修で研究協議を行うインターバル研修もしている。
- ・特別支援教育の専門研修を4講座実施。
- ・職務研修として、特別支援学級新任研修～基礎編・実践編～(2回)、新任特別支援教育主任研修(1回)実施。
- ・研修観の転換を図る。
- ・グループ協議において経験年数が長い教員と短い教員を同じグループにすることで、協議を多くの視点で進められるようにしている。また、参考資料としてNISE学びラボや特総研発行の特別支援教育リーフ等を紹介し、研修後の学びにつなげてもらえるようにしている。
- ・研修内容や形態に合わせてオンライン研修を充実させ、受講者の負担を軽減し、受講環境の改善を推進している。障害特性に応じた研修や「特別支援教育基礎コンテンツ」の内容を、現場の多様なニーズにより的確に対応できるよう改定・充実させている。
- ・特別支援学校の教員の専門性向上はもとより、小・中学校、高等学校の特別支援学級や通級による指導の担当教員の専門性の向上に資する研修を企画・実施している。また、それらの研修には県立特別支援学校に自立活動教諭として配置している専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職)も参加し、多職種での協議や演習を行っている。
- ・特別支援学校コーディネーターが各地域で必要な研修講師についても対応できるようにするため、特別支援学校コーディネーターの経験年数等に応じた研修を企画・運営している。
- ・特別支援学級担任者研修等において、障害種別や経験年数に応じて受講者のニーズから研修を組立っている。また、隙間時間の自主研修や校内研修で活用できるよう本課のHP(「特別支援まなびの広場」)に研修用動画や特別支援教育に関するe-ラーニングコンテンツを構築しアップしている。
- ・基礎研修(経年研修)においてそれぞれ特別支援教育の講義を設定する。
- ・研修の中で、中堅者と若年者が協議をする機会を設定している。
- ・特別支援学級やコーディネーターなどの職務への新任者に対し、職務研修を実施している。
- ・講座の内容を基礎的内容、発展的内容と、経験年数等に応じて選択できるようにしている。
- ・研修内容に応じて受講対象者(経験年数別)を設定
- ・通級指導教室の基礎定数化に伴う、通級指導教室に関する専門性の向上
- ・受講者へのアンケートや所員との対話からニーズを把握し、講座内容や形態の改善・変更に努めている。
- ・研修者の自走を促すことができるように、自身の取組を振り返ったり、課題解決に向けて考えたりすることのできる時間を設定している。
- ・県公立学校教員育成指標を基にした研修の構築

- ・関係課と連携した地域の核となるCo.を養成するための人材育成研修の実施
- ・小・中・高等学校の教員を特別支援教育の視点を生かした学級経営、授業づくりに関する研修
- ・管理職を対象とした校内支援体制、児童・生徒観など人材育成の視点について考える研修の実施
- ・ステージ別の研修講座の設定（新任担当教員向け、通常の学級の担任向け基礎講座、特別支援教育コーディネーターレベルアップ講座【中級】、特別支援教育レベルアップ講座【上級】）
- ・初任研、2年研は基礎的・基本的な内容を実施。  
5年研、中堅研では合同研修を実施し、中堅者から5年目の教職員の授業実践に対して指導・助言を行う場を設けている。  
15年研では、これまでの経験を生かし学校全体の状況を踏まえた研修内容に努めている。
- ・特別支援学校のセンター的機能を担う教員を対象とした研修について、受講者の経験に応じて基礎的内容と発展的内容を選択して受講できるようにしている
- ・研修でのグループ協議や連絡協議会を通し、近隣校連携が深まる仕組みづくりをしている。
- ・専門性向上のために、誰でも受講することができる課題研修を、すべての障がい種に応じて（知的障がい、肢体不自由等）全11講座実施している。また新任の特別支援学級担任を対象にした職能研修では、小グループを編成し講話、協議、事例検討等を中心に、年4回実施している。
- ・特別支援教育動画コンテンツでの事前研修を行うことで、効率的に当日の講義や演習等で研修できるようにしている。
- ・通級指導教室担当者研修、特別支援学級担当者研修では、経験年数を目安とした習熟度別の研修を選択できるようにしている。
- ・岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標に基づき、教職員自らキャリアアップを図る研修を実施している。また、発達障がい支援担当教員の段階別研修や特別支援学校教員の専門性向上に関する研修の充実を目指している。
- ・受講者の所属校種や担当障害種等のニーズに応じて、専門性の高い講師を招聘するなどし、研修会を実施している。
- ・講座の初めに学びたいことや課題などに係る問いを投げかけることで、参加者が自分事の研修として、主体的に関与するよう促している。
- ・ファシリテーション能力の向上等を目的に、中堅教諭等資質向上研修において、3年次フォローアップ研修と同日開催する
- ・ニーズに応じた研修実施のため、受講者が選択できるような内容を設定している
- ・より多くの教員が、特別支援教育に関する幅広い研修を受講できるような研修の構築
- ・受講者の自己課題や講座のねらいの確認、対話による学びの深まり、リフレクションの機会の設定
- ・インクルーシブ教育の推進の理念の周知や全県的な特別支援教育に関する課題についての講義で自校の取組を振り返る
- ・大阪府教員等育成指標に基づいた研修の実施
- ・なかなか実施できていないのが現状。課題感としてはもっているため、来年度の研修内容等について見直しをしている。
- ・ニーズに応じた多くのコンテンツを準備し、オンデマンドも可能な範囲で実施
- ・教育センターにおける研修のみならず、各支援学校においても年数回研修を実施し、地域の学校の先生方も参加できる。年度初め、年度末にアンケートを実施し、研修効果を検証する予定である。
- ・今後の研修がより効果的になるよう、教育センターとの連携を検討している。
- ・本市では、新担任・新担当者を対象とした研修とそれ以外の方を対象とした研修、また、選択研修を多く取り入れるようにしており、受講者のニーズに応じて受講できるよう、幅広く研修を設定している。
- ・島根県の特別支援教育に関する課題を基に、研修の在り方を検討している。新任の特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーターになった先生方の育成に重点を置いた研修を実施している。
- ・指導主事用の学習会に、中央講師を招聘する。特別支援教育コーディネーター研修に、全所員体制で臨む。
- ・教員の実態やニーズ（アンケートより把握）に基づき、どのような力を身に付ける必要があるのかを整理した上で研修の企画を行っている。
- ・受講者のニーズにできる限り対応することができるように特別支援学級、特別支援学校、通級による指導、通常の学級、特別支援教育コーディネーター等に対象を分けて様々な研修を実施している。
- ・当センターでは、有識者や学校関係者と共に教育センター内に「特別支援教育ルーム」を設置し、教室まるごと展示をしている。研修においても、そのルームを活用し、教材に触れたり、授業動画を見たりして協議するなど、体感できるようなプログラムで実施している。  
また「教育相談ルーム」も設けることで、研修だけで学べなかった部分のフォローを行っている。
- ・それぞれの教員が自分が学びたいときに学ぶことができるようオンデマンド動画コンテンツの充実に努めるとともに、各研修において、具体的な事例や実践的な内容を取り扱い、参加者が自分事として考えることができるよう研修内容の充実に努めている。
- ・教員の職層や役割に応じた研修を設定している。
- ・実態把握（アセスメント）を体験できる機会を多く設けている。
- ・研修を初任者研修、2年目以降研修、専門研修と体系づけて行っている。

- ・ 就学相談への管理職の参加を通じたOJT
- ・ 新任特別支援教育担当教員研修、新任特別支援教育コーディネーター研修、夏季専門研修33講座
- ・ 特別支援教育総合研究所で配信している動画の視聴を悉皆研修として位置付けている。3年前より、市で2本ずつ動画（コンテンツ）を選定し、視聴結果を報告するよう求めている。それ以外のコンテンツを視聴することもよとしているが、それらについては把握できていない。
- ・ 受講者の校種や教職経験年数が多様な研修では、実践の紹介やその際に生じた悩みなどを交流できるよう、グループ設定の工夫や協議の時間を意識的に確保している。受講者から研修講師に質問をしやすいするために、グループで質問を考える機会等も設けている。今年度より国立特別支援教育総合研修所の動画研修コンテンツ「学びラボ」をパッケージに取り入れ、初めて支援学級の担任をする教員への学びの機会を確保している。
- ・ 研修者の自走を促すことができるように、自身の取組を振り返ったり、課題解決に向けて考えたりすることのできる時間を設定している。
- ・ すべての学級の教員に向けた特別支援教育研修を実施している

## 第3分科会

### 調査・研究

## 第3分科会 調査・研究に関する事情聴取の集約結果

### 主題 地域の現状に応じた特別支援教育の推進に向けての調査・研究の取組

#### 1 特別支援教育に関する調査・研究事業の実施状況について

##### (1) 実施の有無について

※選択肢から選んで回答(回答が③の場合、その理由を記入)

①調査・研究している	41
②過去に実施していた	10
③実施していない	11
未回答	1

実施していない場合、その理由

- ・ 長期研修制度を活用した研究としているため
- ・ 県教育委員会で実施しているため
- ・ 担当主事の不足
- ・ 教育支援課としては、学校に調査・研究を依頼していないため
- ・ 令和5年度から当課において調査・研究事業が廃止されたため
- ・ 教育相談、就学相談、研修を主な事業としているため
- ・ 研究論文を個人学校単位でR5年度まで募集していた
- ・ 当センターにおいて調査・研究に関する事業は実施していないため
- ・ 事業としては行っていないが、必要に応じて調査を依頼することはある。
- ・ 教育局特別支援教育課で実施しているため。

#### 2 過去3年間に実施した調査・研究について(主なものを3つまで、実施中も含む)

##### (1) 内容

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究	2
②特別支援学級、通級指導教室(通級による指導)に関わる研究	1
③特別支援学校に関わる研究	3
④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究	0
⑤その他	0

※その他の内容

- ・ 学校間連携による特別支援教育の推進
- ・ 特別支援教育
- ・ 支援教育に関する研究
- ・ 教育と福祉の連携深化
- ・ 特別支援教育コーディネーターの業務円滑化に関する研究
- ・ 高等学校、特別支援学校高等部の生徒の進路選択と進路先への移行に関する研究
- ・ 学習障害に関する研究
- ・ ①②の両方に関わる研究
- ・ 小・中学校の特別支援学級、特別支援学校に関わる研究
- ・ ケースカンファレンスの方法

##### (2) 実施期間

※一覧に記載

### (3)調査・研究の題名

#### ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究（35）

- ・ 読み書きに困難のある児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究
- ・ 高等学校における校内支援体制の充実に関する研究ー特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通してー
- ・ 高等学校における特別支援を必要とする生徒への進路指導の充実と関係機関との連携に関する研究
- ・ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒へのチームで行う校内支援の充実
- ・ 小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方
- ・ DE&I時代における特別支援教育の在り方について
- ・ 特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の構築と充実を支える学校支援
- ・ 思春期・青年期における多様なニーズの子どもへの支援のあり方を探る取組
- ・ 多様なニーズのある子どもが集団の中で自分らしく学ぶための学校支援のあり方
- ・ 児童生徒の理解を深めるために～教職員の児童生徒理解を支援する～
- ・ 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくるために～教室で困っている子が困らなくなるためにできること～
- ・ 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくるために～アセスメントを生かし子供が安心して臨める授業デザインを考える～
- ・ ICTを活用した読み書きに困難のある児童生徒の学びのナレッジベース
- ・ 通常学級に在籍する読み書きに困難のある児童生徒のICT活用を含む授業改善研究
- ・ 通常の学級に在籍する子どもの指導・支援に係る調査・研究
- ・ 高等学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善
- ・ 通常の学級における特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応の悩みとその解決に関する調査について
- ・ 行政区を超えた通級による指導の開始に向けて
- ・ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童に関する情報の引継ぎ及び活用
- ・ 中学校等から高等学校への連携の仕組みの構築
- ・ 学校現場の「授業づくり」を支える教育センターの取組～「スリンプル・プログラム」のスムーズな導入に向けて～
- ・ 通常の学級における子どもたち一人一人の教育的ニーズに応えるために～生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～
- ・ 通常の学級における学習上の困難さのある児童生徒への必要な教育的支援の在り方
- ・ 生徒一人ひとりが学びやすい授業づくりに関する研究-高等学校における授業のユニバーサルデザイン化を通して-
- ・ ポジティブ行動支援の更なる展開ー学校・園のPBS実践を支援する専門教員の養成を目指してー
- ・ 特別支援教育の視点に立った個別最適な学びを実現するための校内支援体制づくりに関する研究ーニーズ調査を通した学校サポート資料の作成ー
- ・ 子どもの気になる行動への対応について～応用行動分析の考えを基に～
- ・ 全ての子どもが学びやすく過ごしやすい環境づくりに向けて
- ・ 通常の学級における多様な児童生徒の理解と対応に関する研修プログラムの在り方（事情によりR6から内容変更）
- ・ 特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの指導・支援の充実
- ・ 「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の理解と学びの充実ー「読み・書き」サポートブック作成を通してー
- ・ 発達障害等の児童生徒に対する適切な支援を目指して
- ・ 子どもの実態に合った支援方法の立案ができる対話をめざして
- ・ 特別支援教育コーディネーターの手引き
- ・ 教育研究員研究「通常の学級における支援教育に関する研究～特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり～」
- ・ 高等学校における学びのUD (ICT活用) についての研究

#### ②特別支援学級、通級指導教室（通級による指導）に関わる研究（20）

- ・ 知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践 (ICT活用)
- ・ 指導・支援に生かす個別の指導計画にするために
- ・ オンデマンド研修の充実①「特別支援学級新任者のための研修動画」
- ・ オンデマンド研修の充実②「インクルーシブ教育システムに関する基礎知識」
- ・ 特別支援教室及び通級による指導に関する研究
- ・ 通級による指導を在籍学級の指導・支援に活かすための連携の在り方
- ・ 通級による指導の充実に関する研究
- ・ 中学校特別支援学級の生徒の「共に学ぶ交流及び共同学習」の充実
- ・ 特別支援学級担当のためのハンドブックの改訂
- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級における児童生徒の自律的な学びを進める授業づくり
- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級における異年齢集団での授業づくり

- ・小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究
  - ・小・中学校の通級指導教室及び特別支援学級における自立活動に関する研究
  - ・これからの特別支援教育における児童生徒の多様な学びの充実―特別支援学級における指導方法の提案―
  - ・知的障害教育における自立活動の充実を目指して―研修会の実施とハンドブックの作成を通して―
  - ・特別支援学級・特別支援学校における「自立活動」「交流及び共同学習」の充実
  - ・特別支援学校・学級の児童生徒の個別最適な学び
  - ・特別支援学校・特別支援学級の児童生徒が自ら目標を設定し、主体的に取り組む授業づくり(仮)
  - ・ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究(文部科学省委託事業)
  - ・特別支援学級の環境整備に関する一考察～特別支援教育ルームの活用～
  - ・小学校(通級による指導)自立活動についての研究
  - ・特別支援学級担任向けリーフレット及びWebサイトの作成
- ③特別支援学校に関わる研究 (15)
- ・知的障がい特別支援学校における授業改善に関する研究
  - ・令和6年度(2025年度)特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)の活用、検証の取組
  - ・特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究～学校における人材育成の取組を支えるために～
  - ・特別支援学校高等部における自立と社会参加につながる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～
  - ・特別支援学校(知的障害)におけるICTを活用した指導・支援の充実～障害の状態等に応じたタブレット端末の利用～
  - ・障害のある子どもとのコミュニケーション
  - ・特別支援学校における子どもの資質・能力の育成に向けた取組に関する研究
  - ・特別支援学校における自分らしい生き方の実現に向けたICT活用による取組のあり方
  - ・「ともに学び、ともに育つ」教育の推進に向けた情報発信の在り方に関する調査・研究
  - ・児童生徒の多様な学びを支える1人1台端末の活用に向けた課題要因について
  - ・児童生徒の教育的ニーズに応じた自立活動の充実に関する研究
  - ・「1人1台端末・高速通信環境」を活かした特別支援教育におけるICT活用
  - ・「障害のある児童生徒の学びの充実を図る研究」-特別支援学校におけるICTの効果的な活用を通して-
  - ・高等特別支援学校における軽度知的障害児に対する自立活動の充実-「生徒参画型教材」の開発と自立活動の「流れ図」の活用を通して-
  - ・全ての子どもの教育ニーズに合った学びの実現
- ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究 (16)
- ・省察と対話を核とした授業研究モデルの開発～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～
  - ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒の道徳教育の在り方
  - ・インクルーシブ教育システムの理念に基づく「誰もが自らの学びを実現できる」学校・学級・授業づくり
  - ・自立活動の指導に関する研究-多様な教育的ニーズのある児童生徒等の系統的な学びをめざして-
  - ・発達特性に応じた指導方法に関する研究-アセスメントを基にした指導の充実をめざして-
  - ・特別支援学級の授業づくり～自立活動の指導を軸に～
  - ・障がいのある幼児児童生徒の学びを支えるICTの活用に関する調査・研究
  - ・香川県教育センター協力学校:特別支援学校におけるタブレット端末等ICT活用について
  - ・香川県立学校教育推進協議会:特別支援学校におけるICT活用の事例収集
  - ・生活単元学習の授業づくりに関する研究-各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方-
  - ・知的障がいのある子供の個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方
  - ・支援の必要な児童生徒が安心して学ぶことができる授業づくり
  - ・障害の有無に関わらず共に学ぶ体育授業の充実
  - ・教育課程研究会特別支援教育部会における研究「就労を意識したキャリア教育～清掃活動を活用した自立活動の充実～」
  - ・教育課程研究会特別支援教育部会における研究「個別の教育的ニーズに寄り添った集団指導のあり方について」
  - ・インクルーシブ教育の推進
- ⑤その他 (17)
- ・共生社会の担い手を育む教育の推進
  - ・小学校における障害理解を促す交流及び共同学習の充実
  - ・特別な支援を必要とする児童生徒のためのICTを活用した指導・支援の工夫
  - ・ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために～「先輩教師の技とコツブック」の作成と活用を通して～

- ・ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学びに向かう力を育む支援の在り方—自己の理解と行動を調整する力を引き出す授業実践を通して—
- ・ 交流及び共同学習に係る調査研究
- ・ 特別支援教育コーディネーターの連携と協働に関する調査研究
- ・ 特支教育における主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT機器の利活用に関する研究 自立活動の視点に着目して
- ・ 知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研修
- ・ 知的障害教育における教育課程の評価と改善～観点別学習状況を踏まえた学習評価を中心に～
- ・ 特別支援教育の専門性向上に関する研究
- ・ 特別支援教育の充実を目指す学校間連携の在り方について
- ・ 学習障害の理解と支援に関する研究—背景要因の把握とつまずきに応じた指導支援の充実をめざして—
- ・ 特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究
- ・ 教育と福祉の連携深化のためのコアカリキュラムに基づく支援人材育成研修の実践研究
- ・ 小・中学校における教育的ニーズに応じた支援につなげる校内支援体制の構築と充実を目指して—特別支援教育コーディネーターが役割を円滑に遂行するためのリーフレットの作成—
- ・ 問題解決型ケース会議ガイドブック

#### (4)還元・活用の方法

①発表会の実施	6
②冊子・CD等で配付	4
③ホームページで公開	5
④研修に生かす	4
⑤その他	0

※その他の還元・活用の方法

- ・ ①、②、③

#### (5)HP掲載について

※一覧に記載

#### (6)研究概要、成果物等のURL

※一覧に記載

### 3 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題について

※選択肢から選んで回答(3つまで)

①研究協力校、研究協力員の決定	32
②研究協力校との連携の在り方	22
③子どもの診断	0
④子どもの実態把握	13
⑤子どもに対する具体的な支援方法	12
⑥教員との課題意識の共有	33
⑦校内の協力体制	21
⑧保護者の理解と承諾	3
⑨医療機関、相談機関との連携	2
⑩その他	5

※その他の還元・活用の方法

- ・ 当センターにおける研究の位置付けの整理と研究成果の還元
- ・ 研究を行う時間の確保
- ・ インクルーシブ教育の推進に係る課題
- ・ 成果物の周知や活用について
- ・ 指導主事の業務負担が大きい、優先順位が低くなっている

#### 4 特別な支援を必要とする児童生徒への支援・授業づくりに関する、今後必要と考える調査・研究について

※今後必要と考えられる調査・研究について選択肢から1つ選んで回答し、具体的な内容を記入

##### 今後必要と考えられる調査・研究

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること	11
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること	10
③合理的配慮にかかわること	1
④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること	8
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること	1
⑥特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること	10
⑦高等学校に関わること	7
⑧家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること	0
⑨学習指導要領に関わること	1
⑩その他	8

##### 具体的な内容

###### ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ・ユニバーサルデザインの視点に関わらず、第1層支援を土台とした学校経営、学級経営、授業づくりの在り方に関する研究
- ・学校全体で子どもを支援できる支援体制の構築
- ・全ての学校における特別支援教育に関する理解
- ・SWPBSなど、特別支援教育の視点を取り入れた学校経営、学級経営について
- ・ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり
- ・インクルーシブ教育システム推進の視点による、小中学校の通常学級における特別な支援を必要とする子どもの学びを支援するための仕組みに関する研究
- ・個々の児童生徒の多様な感じ方や学び方を認め合う学級づくりや授業づくり
- ・多様性を包み込む学びの環境づくり
- ・UDL
- ・インクルーシブ教育の推進のために、個別最適な学びの授業づくりについて
- ・通常の学級に在籍する児童生徒の読み書き支援について
- ・全ての子どもが参加し、自ら学習を進めていくことのできる授業づくり
- ・ユニバーサルデザインの視点を踏まえたデジタルを活用した授業づくりについて
- ・教育のUD、PBISなど、様々な観点から児童生徒が安心安全に過ごせる学校環境づくりに係る情報を提供すること
- ・実践とその効果の検証
- ・学校組織としての取組

###### ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ・管理職を含む全教職員の特別支援教育に対する理解と意識向上が必要である。
- ・児童生徒の特性や多様な実態を把握し、個々の教育ニーズに応じた学習指導や支援が展開できるような内容
- ・児童生徒の実態把握の仕方について、成功事例の調査
- ・的確なアセスメント、効果的な教員間連携に関する研究
- ・多様なニーズに対応する教員の専門性向上と校内支援体制の整備
- ・様々な校種、学びの場において障害特性を理解した授業づくり
- ・支援を必要とする児童生徒に対するアセスメントと指導支援について
- ・児童生徒の実態把握に基づいた、支援や授業づくりの在り方について
- ・近年、増加の一途をたどる本県の情緒障害特別支援学級在籍児童生徒への学習及び生徒指導支援
- ・指導内容をどのように設定しているか

###### ③合理的配慮にかかわること

- ・合理的配慮と基礎的環境整備に関する研究

#### ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

- ・ 全ての学校における特別支援教育に関する理解
- ・ 学校全体で子どもを支援できる支援体制の構築
- ・ 発達段階に応じた適切な指導や支援について
- ・ 自校の課題を明らかにし、自校の強みを生かした支援体制を再構築していく方法について研究する
- ・ 教職員が個々の役割を果たし、連携して取り組むための実践に関する研究
- ・ 教師個人の力量とともに組織としての対応力向上のための取組
- ・ 全校種(幼・小・中・高・特)において、特別支援教育の核となる教員の専門性と指導力の向上と校内支援体制の充実について
- ・ 小・中学校、高等学校における校内体制の充実
- ・ 管理職を中心として、特別支援教育に関する知識やスキルを備え、学校全体でどう支援体制を整えるかを追究する。

#### ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

- ・ 全ての教員の特別支援教育への理解や、困難さのある児童生徒への指導・支援方法の習得
- ・ 通常の学級の教員に対しても特別支援教育に関する理解を深めるための研修の実施

#### ⑥特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

- ・ 教育課程に関すること
- ・ 連続性のある多様な学びの場の充実
- ・ 切れ目のない支援の引き継ぎと関係機関との連携強化
- ・ 今まで取り組んできた調査・研究内容の質的向上
- ・ 従来の講師主導のコンサルテーションから、学校が主体的に課題解決できるための持続可能な支援体制の構築
- ・ 知的障がいのある子供の個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方
- ・ 自立活動の指導の充実
- ・ インクルーシブ教育のあり方
- ・ 自立活動における指導の充実
- ・ 星本を活用した授業づくりについて
- ・ ICTを使った授業づくり

#### ⑦高等学校に関わること

- ・ 高校における合理的配慮の提供の合意形成の手順や引継ぎの方法
- ・ 高等学校において特別支援教育を推進していくための体制整備
- ・ 高等学校における特別支援教育の現状と課題について
- ・ 高等学校及び特別支援学校高等部併置校の教育的効果について。
- ・ 高等学校における特別支援教育の推進・充実について
- ・ 高等学校における支援教育に対応した校内支援体制に関する研究
- ・ 高校における通級による指導を実施するまでの事例や、高校のニーズに合った学校支援のあり方についての研究

#### ⑨学習指導要領に関わること

- ・ 次期学習指導要領改訂へ向け、改訂ポイントを整理することは、指導の充実につながる。

#### ⑩その他

- ・ 多様な子供たちが同じ場所で学べる学校・学級・授業づくり
- ・ 特別支援教育の視点で学校経営、学級経営、授業づくり
- ・ 学校と連携した該当校の問題解決に向けた研究
- ・ インクルーシブ教育の推進に関わること
- ・ SWPBSなど、特別支援教育の視点を取り入れた学校経営、学級経営について
- ・ 通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への支援・指導に関わること
- ・ 強度行動障害のある児童生徒の実態調査
- ・ インクルーシブ教育システム推進の視点による、小中学校の通常学級における特別な支援を必要とする子どもの学びを支援するための仕組みに関する研究
- ・ 小・中学校の通常の学級における特別な教育的支援を必要としている児童生徒を支援する際に、校内支援体制の機能に着目し、どのようなすれば効果的に作用するか、その在り方を提案する。
- ・ 通常の学級における特別支援教育
- ・ 教育的支援の在り方について

過去3年間に実施した調査・研究一覧

北海道立特別支援教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R6 ~ R6	知的障がい特別支援学校における授業改善に関する研究～	① ③ ④	している	<a href="https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/page_20250318014400">https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/page_20250318014400</a>
③	R5 ~ R6	令和6年度(2025年度)特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)の活用、検証の取組	① ③ ④	している	<a href="https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/netcommons3/page_id1150">https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/netcommons3/page_id1150</a>
③	R5 ~ R5	特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究～学校における人材育成の取組を支えるために～	① ③ ④	している	<a href="https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/netcommons3/page_id1150">https://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/page_371/netcommons3/page_id1150</a>

青森県総合学校教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R3 ~ R6	読み書きに困難のある児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究	① ② ③	している	小・中学校の通常の学級における読み書きに困難のある児童生徒の学び支援ガイド(第2版)、理解啓発研修コンテンツ <a href="https://ts.edu-c.pref.aomori.jp/reaserch/manabikata">https://ts.edu-c.pref.aomori.jp/reaserch/manabikata</a>
④	R7 ~ R8	省察と対話を核とした授業研究モデルの開発 ～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～	① ③ ④		

岩手県立総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R4 ~ R4	知的障がいの児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践(ICT活用)	① ② ③	している	<a href="https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html">https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html</a>
①	R6 ~ R6	高等学校における校内支援体制の充実に関する研究 一特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通して～	① ② ④	している	<a href="https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html">https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html</a>
①	R7 ~ R7	高等学校における特別な支援を必要とする生徒への進路指導の充実と関係機関との連携に関する研究	① ② ③	していない	高等学校における特別な支援を必要とする生徒への進路指導と関係機関との連携の進め方に関する実践的知識の共有を図るための情報発信を行う。

宮城県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
⑤	R7 ~ R7	共生社会の担い手を育む教育の推進	① ④	していない	
⑤	R6 ~ R6	小学校における障害理解を促す交流及び共同学習の充実	① ③ ④	している	<a href="https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/tokubetsusien/">https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/tokubetsusien/</a>
①	R5 ~ R5	特別な教育的支援を必要とする児童生徒へのチームで行う校内支援の充実	① ③ ④	している	<a href="https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/hanasapo/">https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/hanasapo/</a>

秋田県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
⑤	R4 ~ R5	特別な支援を必要とする児童生徒のためのICTを活用した指導・支援の工夫	① ③ ④	している	<a href="https://www.akita-c.ed.jp/new_hp/teacher_site/r6seitoshidou/R4R5.pdf">https://www.akita-c.ed.jp/new_hp/teacher_site/r6seitoshidou/R4R5.pdf</a>
⑤	R6 ~	ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために～「先輩教師の技とコツブック」の作成と活用を通して～	① ② ③		

福島県特別支援教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R5 ~ R7	小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方	① ③ ④	している	<a href="https://special-center.fcs.ed.jp/page_20240322025508">https://special-center.fcs.ed.jp/page_20240322025508</a>
③	R5 ~ R6	特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～	① ④ ④	している	<a href="https://special-center.fcs.ed.jp/wysiwyg/file/download/24/4324">https://special-center.fcs.ed.jp/wysiwyg/file/download/24/4324</a>

茨城県教育研修センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
④	R3 ~ R4	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の道徳教育の在り方	① ③ ④	している	<a href="https://kyozai.ibk.ed.jp/material-db/detail/20522">https://kyozai.ibk.ed.jp/material-db/detail/20522</a>
⑤	R5 ~ R6	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学びに向かう力を育む支援の在り方～自己の理解と行動を調整する力を引き出す授業実践を通して～	① ③ ④	している	<a href="chrome-extension://efaidnbmnnpkcepcjpclefindmkaj/https://www.center.ibk.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/3926">chrome-extension://efaidnbmnnpkcepcjpclefindmkaj/https://www.center.ibk.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/3926</a>

過去3年間に実施した調査・研究一覧

栃木県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
③	R4	～	R4	特別支援学校(知的障害)におけるICTを活用した指導・支援の充実～障害の状態等に応じたタブレット端末の利用～	③ ④	している	<a href="https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2022/r04_chosa_01.pdf">https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2022/r04_chosa_01.pdf</a>
②	R5	～	R5	指導・支援に生かす個別の指導計画にするために	③ ④	している	個別の指導計画を指導・支援に生かすために大切にしたい5つのことをまとめた。 <a href="https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2023/r05_chosa_02.pdf">https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2023/r05_chosa_02.pdf</a>
③	R6	～	R6	障害のある子どもとのコミュニケーション	③ ④	している	障害のある子どもとのコミュニケーションにおいて、大切にしたいことを、実践例とともにまとめた。 <a href="https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2024/r06_chosa_02.pdf">https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/sodan/cyosa/2024/r06_chosa_02.pdf</a>

群馬県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
④	R6	～	R6	インクルーシブ教育システムの理念に基づく「誰もが自らの学びを実現できる」学校・学級・授業づくり	① ③ ④	している	<a href="https://center.gsn.ed.jp/tokushi">https://center.gsn.ed.jp/tokushi</a>
②	R5	～	R5	オンデマンド研修の充実②「インクルーシブ教育システムに関する基礎知識」	③ ④		
②	R4	～	R4	オンデマンド研修の充実①「特別支援学級新任者のための研修動画」	③ ④		

埼玉県立総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
⑤	R7	～		交流及び共同学習に係る調査研究	③ ④		
⑤	R5	～	R6	特別支援教育コーディネーターの連携と協働に関する調査研究	③ ④	している	<a href="https://www.center.spec.ed.jp/cyousakenkyu/page_20250325005901">https://www.center.spec.ed.jp/cyousakenkyu/page_20250325005901</a>

千葉県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
⑤	R6	～	R7	特支教育における主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT機器の利活用に関する研究 自立活動の視点に着目して	① ③ ④	している	<a href="https://www.ice.or.jp/nc//investigation/houkoku/tokushi/saisin">https://www.ice.or.jp/nc//investigation/houkoku/tokushi/saisin</a>
⑤	R4	～	R5	知的障害教育における学習評価から授業改善につなげる フレームワークに関する研修	① ③ ④		
⑤	R2	～	R3	知的障害教育における教育課程の評価と改善～観点別学習状況を踏まえた学習評価を中心に～	① ③ ④		

東京都教職員研修センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
②	R4	～	R5	特別支援教室及び通級による指導に関する研究	① ③ ④	している	<a href="https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/bulletin/r5.html">https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/bulletin/r5.html</a>

神奈川県立総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
⑤	R2	～	R4	特別支援教育の専門性向上に関する研究	② ③ ④	している	<a href="https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/seikabutsu.html">https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/seikabutsu.html</a>

新潟県立教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
⑤	R4	～	R6	特別支援教育の充実を目指す学校間連携の在り方について	① ③ ④	している	過去の調査研究の概要を掲載。R4年度から高等学校における特別な支援を要する生徒の卒業後を見据えた指導・支援の研究として調査研究を開始。R6年度は同敷地内の高等学校と特別支援学校の学校間連携に焦点をあて発表。 <a href="https://niigata-educ.nein.ed.jp/study14.html">https://niigata-educ.nein.ed.jp/study14.html</a>
①	R7	～		DE&I時代における特別支援教育の在り方について	① ③ ④		

過去3年間に実施した調査・研究一覧

富山県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R5 ~ R7	通級による指導を在籍学級の指導、支援に活かすための連携の在り方	③ ④	している	「子供のなりたい姿を支えるための在籍学級と通級による指導をつなぐ連携シート」 <a href="https://www.center.tym.ed.jp/wp-content/uploads/R7tsuukyuu_renkeishi-">https://www.center.tym.ed.jp/wp-content/uploads/R7tsuukyuu_renkeishi-</a>

福井県特別支援教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R4 ~ R4	特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の構築と充実を支える学校支援	① ②		
①	R5 ~ R5	思春期・青年期における多様なニーズの子どもへの支援のあり方を探る取組	① ②		
①	R6 ~ R6	多様なニーズのある子どもが集団の中で自分らしく学ぶための学校支援のあり方	① ②		

山梨県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
⑤	R6 ~ R8	学習障害の理解と支援に関する研究ー背景要因の把握とつまづきに応じた指導支援の充実をめざしてー	① ③	していない	
④	R5 ~	自立活動の指導に関する研究ー多様な教育的ニーズのある児童生徒等の系統的な学びをめざしてー	① ② ③	している	<a href="https://www.ypec.ed.jp/?page_id=4767">https://www.ypec.ed.jp/?page_id=4767</a> <a href="https://www.ypec.ed.jp/?page_id=91">https://www.ypec.ed.jp/?page_id=91</a>
④	R3 ~ R4	発達特性に応じた指導方法に関する研究ーアセスメントを基にした指導の充実をめざしてー	① ② ③	している	<a href="https://www.ypec.ed.jp/?page_id=4767">https://www.ypec.ed.jp/?page_id=4767</a> <a href="https://www.ypec.ed.jp/?page_id=91">https://www.ypec.ed.jp/?page_id=91</a>

長野県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R5 ~ R5	児童生徒の理解を深めるために ～教職員の児童生徒理解を支援する～	① ② ③	している	<a href="https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/kenkyu_chousa/project/2023/2023_re_E.pdf">https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/kenkyu_chousa/project/2023/2023_re_E.pdf</a>
①	R6 ~ R6	一人の子ども取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくるために～教室で困っている子が困らなくなるためにできること～	① ③ ④	している	<a href="https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/about/syohou/2024/shino191.pdf">https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/about/syohou/2024/shino191.pdf</a>
①	R7 ~	一人の子ども取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくるために～アセスメントを生かして子供が安心して臨める授業デザインを考える～	① ③ ④		

静岡県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R4 ~ R6	特別支援学校における子どもの資質・能力の育成に向けた取組に関する研究	① ③ ④	している	特別支援学校における1人1台端末を活用した学びの充実 <a href="https://www.center.shizuoka-c.ed.jp/page_20230316234002">https://www.center.shizuoka-c.ed.jp/page_20230316234002</a>

愛知県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R2 ~ R4	通級による指導の充実に関する研究	① ③	している	<a href="https://apec.aichi-c.ed.jp/kenkyu/chousa/tsukyu/index.html">https://apec.aichi-c.ed.jp/kenkyu/chousa/tsukyu/index.html</a>
⑤	R5 ~ R7	特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究	① ③		

滋賀県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R2 ~ R5	特別支援学校における自分らしい生き方の実現に向けたICT活用による取組のあり方	① ② ③	している	整備中
②	R6 ~ R6	中学校特別支援学級の生徒の「共に学ぶ交流及び共同学習」の充実	① ② ③	している	整備中

過去3年間に実施した調査・研究一覧

京都府総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R6 ~ R7	ICTを活用した読み書きに困難のある児童生徒の学びのナレッジベース	③ ④	している	<a href="https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/tokubetu/24_kenkyu/kb/home.pdf">https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/tokubetu/24_kenkyu/kb/home.pdf</a>
①	R1以前 ~ R5	通常学級に在籍する読み書きに困難のある児童生徒のICT活用を含む授業改善研究	③ ④	している	<a href="https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?p=1208#toc1">https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?p=1208#toc1</a>
④	R5 ~ R6	特別支援学級の授業づくり～自立活動の指導を軸に～	③ ④	している	<a href="https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?p=5425">https://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?p=5425</a>

大阪府教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
④	R2 ~ R3	障がいのある幼児児童生徒の学びを支えるICTの活用に関する調査・研究	① ③ ④	している	<a href="https://www.osaka-c.ed.jp/matters/specialneeds_files/r03_shien_ict_leaflet_practice01.pdf">https://www.osaka-c.ed.jp/matters/specialneeds_files/r03_shien_ict_leaflet_practice01.pdf</a>
③	R4 ~ R5	「ともに学び、ともに育つ」教育の推進に向けた情報発信の在り方に関する調査・研究	① ② ③	している	<a href="https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/investigate/investigate_publication.html">https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/investigate/investigate_publication.html</a>
①	R6 ~ R7	通常の学級に在籍する子どもの指導・支援に係る調査・研究	① ② ④	していない	

兵庫県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R5 ~ R5	高等学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善	① ② ④	している	<a href="https://www.hyogo-c.ed.jp/~kenshu-p-lib/bulletin.php">https://www.hyogo-c.ed.jp/~kenshu-p-lib/bulletin.php</a>
①	R6 ~ R6	通常の学級における特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応の悩みとその解決に関する調査について	① ④		
③	R7 ~ R7	児童生徒の多様な学びを支える1人1台端末の活用に向けた課題要因について	① ③ ④		

奈良県教育委員会事務局 特別支援教育推進室

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R6 ~ R8	行政区を超えた通級による指導の開始に向けて	①		
①	R5 ~ R6	通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童に関する情報の引継ぎ及び活用	① ④		
①	R5 ~	中学校等から高等学校への連携の仕組みの構築	② ④		

島根県教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R5 ~ R6	学校現場の「授業づくり」を支える教育センターの取組～「スリンプル・プログラム」のスムーズな導入に向けて～	① ② ③	している	<a href="https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/kiyo-hokokusho/index.html">https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/kiyo-hokokusho/index.html</a>
①	R5 ~ R6	通常の学級における子どもたち一人一人の教育的ニーズに応えるために～生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～	① ② ③	している	<a href="https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/seikabutsu/index.html">https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/seikabutsu/index.html</a>

岡山県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R6 ~ R6	特別支援学級担当のためのハンドブックの改訂	② ③		

広島県立教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R6 ~ R7	通常の学級における学習上の困難さのある児童生徒への必要な教育的支援の在り方	① ④ ③	している	<a href="https://www.hiroshima-c.ed.jp/research.html">https://www.hiroshima-c.ed.jp/research.html</a>
②	R5 ~ R5	自閉症・情緒障害特別支援学級における児童生徒の自律的な学びを進める授業づくり	① ④ ③		
②	R4 ~ R4	自閉症・情緒障害特別支援学級における異年齢集団での授業づくり	① ④ ③		

過去3年間に実施した調査・研究一覧

やまぐち総合教育支援センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R7 ~ R8	児童生徒の教育的ニーズに応じた自立活動の充実に関する研究	① ③	していない	R8.3以降、掲載予定
①	R6 ~ R6	生徒一人ひとりが学びやすい授業づくりに関する研究 -高等学校における授業のユニバーサルデザイン化を通して-	① ③ ④	している	<a href="https://www.center.g.ysn21.jp/調査研究/長期研修教員調査研究">https://www.center.g.ysn21.jp/調査研究/長期研修教員調査研究</a>

徳島県立総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
⑤	R4 ~ R5	教育と福祉の連携深化のためのコアカリキュラムに基づく 支援人材育成研修の実践研究	② ③ ④	している	<a href="https://www.tokushima-ec.ed.jp/kyouikushiryu/kiyou">https://www.tokushima-ec.ed.jp/kyouikushiryu/kiyou</a>
①	R6 ~ R7	ポジティブ行動支援の更なる展開 -学校・園のPBS実践を支援する専門教員の養成を目指して-	② ③ ④		

香川県教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
④	R5 ~ R6	香川県教育センター協力学校： 特別支援学校におけるタブレット端末等ICT活用について	① ② ③	している	<a href="https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/report">https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/report</a>
④	~	香川県立学校教育推進協議会： 特別支援学校におけるICT活用の事例収集	② ③ ④		

愛媛県総合教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R6 ~ R7	特別支援教育の視点に立った個別最適な学びを実現するための校内支援体制づくりに関する 研究-ニーズ調査を通じた学校サポート資料の作成-	① ③ ④	していない	県内公立小中高等学校の校長、特別支援教育コーディネーター、通常の学級担任を対象に実施したアンケート結果を基に、学校サポート資料を作成する。研究成果物を、年度末に掲載予定。
④	R4 ~ R5	生活単元学習の授業づくりに関する研究-各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価 までの考え方-	① ③ ④	している	<a href="https://center.esnet.ed.jo/shiryo_top/kenkyuseika_r5">https://center.esnet.ed.jo/shiryo_top/kenkyuseika_r5</a>

佐賀県教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R6 ~ R6	子どもの期になる行動への対応について~応用行動分析の考えを基に~	④	している	特別支援教育に関する過去の研究成果物(令和元~6年度) <a href="https://www.saga-ed.jp/contents/kenkyu-seika/">https://www.saga-ed.jp/contents/kenkyu-seika/</a>
①	R6 ~ R6	全ての子供が学びやすく過ごしやすい環境づくりに向けて	④	している	特別支援教育に関する過去の研究成果物(平成30年度以前) <a href="https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/index.htm">https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/index.htm</a>
⑤	R5 ~ R5	小・中学校における教育的ニーズに応じた支援につなげる校内支援体制の構築と充実を目指して-特別支援教育コーディネーターが役割を円滑に遂行するためのリーフレットの作成-	② ③		

長崎県教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R3 ~ R4	「1人1端末・高速通信環境」を活かした特別支援教育におけるICT活用	① ④		なし
①	R5 ~ R7	通常の学級における多様な児童生徒の理解と対応に関する研修プログラムの在り方(事情によりR6から内容変更)			
①	R6 ~ R8	特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの指導・支援の充実			

熊本県立教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R3 ~ R3	高等学校における学びのUD (ICT活用) についての研究	① ③ ④	している	HP掲載は、本県教職員のみ閲覧可
②	R4 ~ R4	小学校(通級による指導)自立活動についての研究	① ③ ④	している	HP掲載は、本県教職員のみ閲覧可
②	R5 ~ R7	特別支援学級担任向けリーフレット及びWebサイトの作成	② ③ ④	している	<a href="https://sites.google.com/g.bears.ed.jp/tokubetsushien?usp=sharing">https://sites.google.com/g.bears.ed.jp/tokubetsushien?usp=sharing</a>

過去3年間に実施した調査・研究一覧

大分県教育センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
②	R4	～	R4	小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究			③	④	している	<a href="https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r4chousa-kenkyu.html">https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r4chousa-kenkyu.html</a>	
②	R5	～	R6	小・中学校の通級指導教室及び特別支援学級における自立活動に関する研究			③	④	している	<a href="https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r5chousa-kenkyu.html">https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r5chousa-kenkyu.html</a>	
④	R7	～	R9	知的障がいのある子供の個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方			②	③	④	している	<a href="https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r6chousa-kenkyu.html">https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r6chousa-kenkyu.html</a>
鹿児島県総合教育センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
③	R4	～		「障害のある児童生徒の学びの充実を図る研究」 -特別支援学校における ICT の効果的な活用を通して-			①	③	④	している	<a href="https://sites.google.com/kago.ed.jp/kenkyuukiyou">https://sites.google.com/kago.ed.jp/kenkyuukiyou</a>
②	R5	～	R6	これからの特別支援教育における児童生徒の多様な学びの充実-特別支援学級における指導方法の提案-			①	③	④		
沖縄県立総合教育センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
②	R3	～		知的障害教育における自立活動の充実を目指して -研修会の実施とハンドブックの作成を通して-			①	③		している	<a href="http://tokusi.edu-c.open.ed.jp">tokusi.edu-c.open.ed.jp</a>
①	R4	～	R5	「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の理解と学びの充実 -「読み・書き」サポートブック作成を通して-			①			していない	
③	R6	～		高等特別支援学校における軽度知的障害児に対する自立活動の充実-「生徒参画型教材」の開発と自立活動の「流れ図」の活用を通して-			①			していない	
千葉県養護教育センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
①	R4	～	R5	発達障害等の児童生徒に対する適切な支援を目指して			①	②	④	している	<a href="http://city.chiba.jp/kyoiku/gakkokyoiku/yogokyoiku/documents/hattatsu_leaflet.pdf">city.chiba.jp/kyoiku/gakkokyoiku/yogokyoiku/documents/hattatsu_leaflet.pdf</a>
②	R6	～	R7	特別支援学級・特別支援学校における「自立活動」「交流及び共同学習」の充実			①	②	④		
川崎市総合教育センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
①	R5	～	R5	子どもの実態に合った支援方法の立案ができる対話をめざして			①	②	④	している	
②	R6	～	R6	特別支援学校・学級の児童生徒の個別最適な学び			①	②	④		
②	R7	～	R7	特別支援学校・特別支援学級の児童生徒が自ら目標を設定し、主体的に取り組む授業づくり(仮)			①	②	④		
横浜市特別支援教育総合センター											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
⑤	R6	～		問題解決型ケース会議ガイドブック			③	④		している	市内のみ
①	R5	～		特別支援教育コーディネーターの手引き			③	④		している	市内のみ
京都市教育委員会事務局 指導部総合育成支援課											
(1)内容	(2)実施期間		(3)調査・研究の題名			(4)還元・活用		(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL		
④	R5	～		支援の必要な児童生徒が安心して学ぶことができる授業づくり			①	③		している	<a href="https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/center/study/page_20230309011629">https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/center/study/page_20230309011629</a>
④	R4	～		障害の有無に関わらず共に学ぶ体育授業の充実			①				

過去3年間に実施した調査・研究一覧

大阪市教育委員会事務局指導部 インクルーシブ教育推進室

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R3 ~ R4	ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究(文部科学省委託事業)	② ④	していない	特別支援学校及び通級による指導における自立活動の6区分に応じたICTを活用した指導内容を検討し、活用事例を収集した。

広島市教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
②	R6 ~ R7	特別支援学級の環境整備に関する一考察～特別支援教育ルームの活用～	④		

福岡市教育委員会発達教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
③	R6 ~ R6	全ての子どもの教育ニーズに合った学びの実現	① ② ③	している	<a href="https://sites.google.com/fuku-c.ed.jp/f-educenter/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0">https://sites.google.com/fuku-c.ed.jp/f-educenter/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0</a>

相模原市教育センター

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
①	R3 ~ R5	教育研究員研究「通常の学級における支援教育に関する研究～特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり～」	① ③ ④	している	<a href="https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/icta_base/include/js/c-keditor/kcfinder/upload/files/20230707164949.pdf">https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/icta_base/include/js/c-keditor/kcfinder/upload/files/20230707164949.pdf</a>
④	R5 ~ R6	教育課程研究会特別支援教育部会における研究「就労を意識したキャリア教育～清掃活動を活用した自立活動の充実～」	① ③ ④	していない	Google ドライブ内に格納し、本市の教職員のみが閲覧できる形としている。
④	R6 ~ R7	教育課程研究会特別支援教育部会における研究「個別の教育的ニーズに寄り添った集団指導のあり方について」	① ③ ④		

札幌市教育委員会事務局

(1)内容	(2)実施期間	(3)調査・研究の題名	(4)還元・活用	(5)HP掲載	(6)研究概要、成果物等のURL
④	R7 ~ R7	インクルーシブ教育の推進	① ② ④		

## 5 協議テーマ「調査・研究を共有し、活用するために」に関する工夫や取り組み

- ・令和5年度に作成した特別支援教育の基本や授業づくりに関する研修資料を、令和6年度は協力校を募って学校計画研修で活用してもらった。当センターはその実践校と連携しながら取組の充実を図った。
- ・研究成果物をセンターのホームページで発信する。
- ・研究成果物を指導資料として県のホームページに掲載する。
- ・研究内容を研修講座に組み込んだり、研究の概要版を講座で配付したりする。
- ・研究協力校との取組をコンテンツとしてHPに掲載し、校内研修等で活用できるよう工夫している。
- ・活用後にフォームで感想をいただき、今後の改良に生かせるようにしている。
- ・研修講座や校内研修支援での活用がしやすくなる調査・研究のまとめ方の工夫。
- ・研究発表大会による発表、HP掲載、オンデマンドによる配信、さらにステージ研修における研究成果物の活用に取り組んでいる。
- ・研究成果物のガイドブック等は、情報を網羅するのではなく、県内の先生方に必要と思われる情報を大胆に精選するとともに、読み返してもらえるよう内容のインパクトを重視している。
- ・Webページに公開したり、指導主事研究協議会、巡回相談員連絡協議会等にてPRしたりしている。
- ・調査・研究のテーマが県の課題及び各校種の課題の解決に資するものを選定する。
- ・どの学校でも取り入れることができるポイントが明確になるように研究を進める。
- ・これまでの研究成果のナレッジベース化。
- ・ナレッジベースのアクセシビリティを高める。
- ・調査・研究事業は実施していない。
- ・研究成果をHPに掲載、及び授業づくり実践検討会等で紹介
- ・推薦研修では、小・中・義務教育学校及び県立特別支援学校にその活用を周知している。
- ・学校等に講師で行く際には講話で調査・研究での成果物を実際に使い、今後活用できるようにしている。
- ・県教委と連携し、事業の企画、調査の必要性、結果の共有を行っている。
- ・特別支援学級ハンドブック(改訂版)を作成し、特別支援学級担任者研修会等において活用の仕方を周知した。ポジティブ行動支援についての指導助言を専門とする巡回相談員(PBSコンサルタント)のマニュアルを作成し、その養成研修において活用予定である。
- ・協力校を募り、学校現場で課題とされている問題の解決を支援する。
- ・報告書の発行、研究は発表会の実施を通して、調査研究の成果の共有を図る。
- ・現職教育などに指導主事を派遣し、研究成果を踏まえた指導・助言を行う。
- ・研究成果物をホームページに掲載するとともに、基礎研修や出前講座等で活用している。
- ・特別支援教育に関する研究を行っている教職大学院の授業で、特別支援教育に関する研修体系について情報提供を行っている。
- ・研究テーマの設定と実施について、教育相談・生徒指導チームと連携して取り組んでいる。
- ・調査研究の成果物を手引き・様式集一覧の項目に掲載し、教職員が活用・参考できるようにしている。
- ・研修に活用するとともに、研修時に成果物のHP掲載を伝達
- ・調査研究の成果を研修に生かしたり、特別支援教育の施策等に生かす。
- ・特別支援教育に関する調査結果や研修内容や振り返りアンケート等から、ニーズの高い内容を踏まえ、幅広く学校に還元できる内容について取り組んでいる。
- ・研究を紹介するチラシを来所者が自由に手に取れるように置いたり、ホームページで紹介したりして周知している。
- ・特別支援学校におけるICTの活用についての研究成果をICTに関する研修で還元している。
- ・研究で得られた実践内容をもとに、研修動画や教材・支援ツール等の作成を行っている。
- ・長期派遣研修員による研究を進める。
- ・HPで公開している成果物(特別支援教育資料)の周知・活用状況についてアンケートを実施し、その結果をセンターでの研修内容と関連させて、さらなる周知・活用に努めている。
- ・研究成果について広く活用してもらえるよう、指導主事、専門研究員等が出前形式で研修会を実施している。
- ・若手教員の児童生徒との関係づくりについての悩み事を調査し、それに対する先輩教員の取組をまとめたガイドブックやチェックリストを作成し、現場での活用を促す。
- ・積極的な成果物の紹介・普及、成果物の使いやすさの工夫(データ配付、リンクを貼る等)
- ・調査研究にあたり、関連のある内容を発表されている他の自治体の研究成果を参考にしている。

- ・センター広報誌および発信、成果物の研修での紹介など
- ・現在は総合教育センター内の各課、各班の連携の下非認知についての研究に取り組んでいる
- ・高等学校における支援教育に対応した校内支援体制に関する研究
- ・調査結果や研究報告について特別支援学級担当者会等で共有している。研究成果については総合教育センターの研究報告会やHPに掲載することで共有活用を図っている。
- ・令和7年度より特別支援学級支援チームを立ち上げ、学校現場との連携による実践的な取組を行っている。その成果を他校にも還元していく。
- ・研究内容については広くホームページに掲載し、市民へ公表するようにしている。市内教職員においては、Googleサイト・Googleドライブを活用して広く情報発信し、いつでも見られるようにしている。
- ・調査・研究で作成した成果物を、HPへの掲載に合わせ、研修で活用したり学校で紹介したりすることで理解・啓発を進めている。
- ・市町村教育委員会の特別支援教育担当者を対象とした連絡協議会にて、調査の結果やそれを踏まえた県の事業等の説明を行っている。
- ・研修及び支援事業において生かしている。
- ・R7年度は、大学などと連携し、「初めて特別支援学級を担当する教師のためのガイドブック」の作成を行っている
- ・調査・研究の結果のみを公表するばかりでなく、取組の過程の中で管理職、教職員、児童生徒の意識や行動がどのように変容したかなどの検証等を一部の学校に留めず、具体的な課題や成果を全市的に共有できるようにしていく。
- ・当所では研究した内容と成果物を基に学校訪問のモデルプランを作成し、実施している。また、研究発表会の開催についてはPlant（全国教員研修プラットフォーム）を通して他の道府県に広く周知し、オンライン・オンデマンド配信し、共有している。
- ・成果物を活用した研修の実施
- ・研究した実践を、年度末の実践研究発表会で報告し、県内の支援者に広く共有している。
- ・特別支援学級における授業時数の割合
- ・教員が使用しているパソコンで、すぐ見れるように掲載を計画中。
- ・相談機関の為、発達障害について相談が来所した児童について学校に情報提供する。それに合わせて、刊行物の情報をメールに添えて校内での使用を促している。
- ・本センターでの研修や学校に出向いての研修の際に、紹介及び活用をしている。また、研修者に各自が実践においてどのように活用したかを、回答フォームを利用して把握している。

# 第4分科会

## 管理・運営

第4分科会 管理・運営に関する聴取事項調査票の集約結果

主題 インクルーシブ教育システム推進に向けた特別支援教育センターの役割

Ⅰ 特別支援教育の推進に向けた取組について

(1) 推進に向けた取組の具体的な内容について

※該当する主なものを選択肢から3つ選んで回答

①センター所員の講師派遣(校内研修、事例検討、保護者研修等)	47
②専門家チームや巡回相談チーム等の一員としての派遣	13
③資料・情報提供、リーフレット・サポートブック等の作成と公開	25
④研究の実施と発信	16
⑤研修講座・セミナー等の開催と充実	38
⑥管理職研修、基本研修等における特別支援教育に関する内容の充実	25
⑦研修講座の地域開催	2
⑧教員の自主研修支援(センター内施設の利用、アドバイス等)	1
⑨研修講座の講義内容の公開	1
⑩教育相談、就学相談事業等の実施と充実	14
⑪その他	1

※その他:オンデマンド研修の充実

(2) 推進に向けての課題や重視している点について

※該当する主なものを選択肢から3つ選んで回答

①研修の実施	42
②特別支援教育に関わる情報提供	23
③センター内体制整備	8
④通常の学級の指導の支援	37
⑤都道府県、市町村教育委員会との連携	23
⑥特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室(通級による指導)の専門性の向上	51
⑦その他	0

※その他:特別支援学校教員と通常の学校教員が共に学ぶ研修構成

(3) 推進に向けた取組に関する都道府県教委または市町村教委と、センターの行う事業との機能分担

※主に担っているものは◎、担っているものは○、担っていないものは△を選択して回答

担っていること	都道府県市教委			特別支援教育センター		
	◎	○	△	◎	○	△
①研修講座の実施	11	2	4	51	1	1
②コーディネーター研修の実施	27	1	6	33	2	10
③各種事業施策等の企画・実施	53	0	2	5	3	26
④学校への専門的指導・助言	39	0	1	21	6	4
⑤専門家や教員等の学校派遣	32	1	6	14	4	22
⑥調査研究の実施	15	2	14	31	2	10
⑦情報提供、発信等	32	1	1	26	6	0
⑧理解・啓発、資料作成等の広報	36	1	1	16	5	4
⑨教育相談、就学相談の実施	35	2	4	33	3	10
⑩各種推進会議、協議会等の開催	50	0	1	4	1	30
⑪その他	0	0	0	0	0	0

(4) 推進に向けた取組に関する都道府県教委または市町村教委と、センターの行う事業との連携

※該当する主なものを選択肢から3つ選んで回答

①研修の企画・運営、講師派遣	44
②研修講座の連携開催	20
③情報発信、情報交換、情報提供及び資料の提供と交換	28
④特別支援教育各種推進事業に係る会議・専門家チーム会議等の開催	25
⑤指導主事を講師として派遣	19
⑥教育相談事業、巡回相談事業等における協力	11
⑦就学相談、就学指導の実施	10
⑧高等学校における特別支援教育の支援事業	4
⑨調査研究リーフレットや資料等の合同作成	4
⑩特別支援学校のセンター的機能の向上	7
⑪その他	1

※その他:教育委員会と教育センターの特別支援教育に関する研修機能の統合及び子ども青少年局の教育相談との連携により対応

## 2 センター所員の専門性向上について

※選択肢から選んで回答(3つまで複数回答可)

### (1) 所内における所員研修の具体的な取組

①教育相談、特別支援教育担当者の研修会・事例検討会等の実施	36
②所員への研修、伝達講習、特別支援教育関係資料の閲覧等の実施	41
③研修講座講師の講義の聴講や各種研修会や研究会への参加	42
④個人研修の実施	11
⑤関係機関との合同研修や研究の実施	6
⑥新任所員研修の実施	3
⑦特別支援教育・教育相談担当と他の担当とが連携した研修・研修の実施	19
⑧その他	2

※その他:協働プロジェクト、心理検査の実施

### (2) 所員への研修についての課題

①研修・相談・講師派遣等の増加による多忙化のため、研修期間・時間の確保が困難	37
②特別支援教育に対応するための共通理解等、全所員の専門性の向上	38
③専門性を一層高めるための特別支援教育担当所員の研修	28
④外部講師招聘や県外出張等のための予算措置	20
⑤所員対象研修の未実施	2
⑥学校園のニーズの正確な把握とそれに基づく研修・研究内容の検討	25
⑦心理検査の結果の解釈等についての担当内共通理解	7
⑧その他	1

※その他:所員数減のため、実施できる業務に上限がある。業務の精選が求められている。

### 3 協議テーマ「関係機関とつながる教育センターの運営」に関する工夫や取組み

- ・北海道で事業を推進している2校に対して、担当する所員を分担し、研修や会議等への参画及び助言等を行っている。
- ・インクルーシブ教育システム構築を前提とした研究を行い、各学校での取組を支援している。
- ・県立図書館と連携した教育支援センターを設置し、生徒の学習保障を行うとともに、学校と連携し支援方法を検討している。
- ・県総合療育センターと県発達障がい者支援センターとの3センターとの協議会を立ち上げ、定期的に情報交換や学習会を開催している。
- ・小・中・特別支援学校の教員を対象にインクルーシブ教育に関する研修を行ったり、小・中・特別支援学校のインクルーシブ教育の推進につながる取組や課題を、学校を参観したりアンケートをとったりして調査している。
- ・当センターで実施している調査研究では特総研と連携し、助言・情報提供してもらっている。
- ・各市町と連携して特別支援教育に関わる研修を実施している。
- ・県教育委員会と滋賀大学の両者の特別支援教育担当者が地域連携合同会議を定期的に開催し、関係機関の連携が図れるような取組を計画し、実施している。
- ・特別支援教育コーディネーター研修において、福祉機関と合同での研修を実施している。
- ・関係機関が参集する協議会等に参加し、情報収集・交換している。
- ・切れ目のない支援の構築や適切な学びの場の提供について、各市町村教育委員会、発達障害支援センターなど関係機関との情報交換を実施している。
- ・インクルーシブ教育に向けては、京都府教育委員会と連携しながら研究や研修を実施しているところである。今年度、京都府教育委員会においてインクルーシブ教育についての指針を策定するため、その内容を踏まえ、来年度の取組について検討していく予定である。
- ・県教育庁と連携し、「通常の学級における特別支援教育授業づくりセミナー」に取組んでいる。
- ・学校等支援では、学校や教育関係団体研修への講師派遣（令和6年度実績：42件）を通じて現場のニーズに応じた指導助言を行い、教職員の専門性向上と支援体制の充実を図り、特別支援教育の現場で求められる課題に対応している。
- ・県教育委員会や市町村教育委員会と連携し、会議や協議会に参加することでニーズや課題を把握して、センター事業にいかしている。
- ・顔合わせを含め、担当者間で連携を取り合うように推奨。各機関の専門性を理解し、積極的に情報交換を行うようにしている。
- ・専門家チーム員の派遣。
- ・関係機関を対象とした要請訪問（園・学校対象）や出張講座（企業、福祉、一般等対象）の実施。
- ・県特別支援教育課が実施するインクルーシブ関連事業へのセンター主事の参加。
- ・インクルーシブ関連研修への大学教員の招聘。
- ・校内研修への講師派遣やケース会議への参加依頼に、積極的に対応している。また、教育相談では、情報共有をこまめに行うようにしている。
- ・県教委（特別支援教育課）と連携し、学校や受講者の状況についての情報共有や、研修、協議会の内容についての整理を行っている。
- ・教育相談・生徒指導担当チームと特別支援教育担当チームの協働による業務の実施
- ・県教育委員会特別支援教育課との連携や長崎大学との連携により講座運営や教育相談等を実施。
- ・ネットワーク会議等、関係機関が参加する会議等への参加
- ・特別支援教育コーディネーター養成研修において、ステージ（初担当・中級・上級）に応じた福祉や心理の専門家や保護者を講師招聘し、役割や思い、具体的な連携の在り方等についての内容を設定している。
- ・関係機関合同協議会への参加
- ・発達障害支援センターとの定期的な情報交換会を行っている。
- ・県内2市町村教育委員会が所管する小・中学校各1校に訪問（各校5回）し、地域における特別支援教育の推進を支援する事業に取り組んでいる。
- ・各研修において社会モデルの重要性と合わせて強調し、受講者に伝えている。
- ・教育委員会と教育センターの特別支援教育に関する研修機能の統合及び子ども青少年局の教育相談との連携により対応
- ・特別支援教育コーディネーターを対象に年3回実施している特別支援教育連携協議会に、各関係機関の方も事務局として、参加していただいている。
- ・相談者を取り巻く機関の連携は当然であるという雰囲気作り。他機関が運営する相談会へ相談員としての協力や訪問研修依頼に応えられるよう、専門性向上のための研修の実施や資料作成・蓄積。
- ・県内の発達障害者支援センター、入所型医療福祉施設に勤務する医師や臨床発達心理士、作業療法士等を講師に招いて研修を行っている。
- ・関係機関（福祉行政、県庁特別支援教育課、教育事務所等）と連携して、インクルーシブ教育システム推進に向けた事業を展開している。
- ・県教委と連携した、特別支援学級や通級指導教室の新担当者を対象とした研修講座を実施している。
- ・各学校等からの依頼を受け、来所サポート、訪問サポート、継続型サポートの各サポート事業を通じてニーズに沿った支援を行っている。

- ・ 県教育委員会との連携
- ・ 教職員研修会サポート事業の実施
- ・ 県教育委員会の関係各課との連携を図ることによって、インクルーシブ教育システム推進に取り組んでいる
- ・ 教育委員会と連携した学校園への指導助言
- ・ 学校機関だけでなく、他局等とインクルーシブ教育システム推進の理念について、他機関との会議や研修等を通して共通理解を図っている。
- ・ アセスメント通じた理解促進や学び方の助言を相談を通して行い、インクルーシブな教育を推進
- ・ 児童相談所との定期的な連絡会議や大学との連携（指導助言・研修講師等）を行っている。
- ・ 県立特別支援学校や関係機関と定期的に協議会や情報交換会等を行い、連携を図っている。
- ・ 島根県教育庁特別支援教育課と連携し、県の施策に基づいた研修の実施に向けて検討をしている。  
また、市町村教育事務所の特別支援教育専任教員と連携し、新任の特別支援学級担任、通級による指導担当教員への研修や学校訪問を実施している。
- ・ 特別支援教育コーディネーター研修会では、特総研インクルーシブ教育システム推進センター長の久保山先生にお越しいただき、ご講演をいただきました。特別支援教育推進講座（インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育を推進する上で必要な専門的知識・技能や特別支援教育コーディネーターの役割について学ぶ）では、教育と福祉の連携という視点で、例年、児童福祉センターに行き、センター概要についての講話を聞いたり、センター内見学をしたりしています。また、本年度から特別支援教育課の指導主事に研修の講師を依頼しています。インクルーシブ教育システム構築に向けて、他機関と連携することが必須であり、それをベースにした研修となるよう整えていく必要があるのですが、未だ不十分に感じています。
- ・ こども家庭センターや医療機関との連携
- ・ 基礎的環境整備、合理的配慮、学びの場の検討等の具体的方策について、教育相談や研修を通して学校支援を行っている
- ・ 当係は県立総合リハビリテーションセンター内にあり、教育の他、医療や福祉等の関係部署もある。  
ケースに応じて、関係機関とつながり情報共有等を行っている。
- ・ 年間3回、教育センターと発達障害者支援センターとの合同セミナーを行っている。
- ・ 幼児児童生徒の就学判断を行う際には、関係機関からの情報を踏まえた就学相談を行う必要があるため、日ごろから他部局との連携を意識的に行うことや、福祉・医療機関を積極的に訪問し、担当職員と意見交換を行うなど円滑な関係性の構築に努めている。
- ・ 特別支援教育主管部署による所内研修の実施。  
特別支援教育主管部署が主催する協議会等に担当者が参加し、所内に資料共有。
- ・ 療育センターとの連携（カンファレンス、勉強会、学術集会、情報提供）を綿密に行っている。
- ・ 近隣の県立特別支援学校や療育センター等との連携会議を定期的に行い、就学や教育相談における連携を図っている
- ・ センター所員がアンテナを高くし、最新の教育情勢を把握するよう努めている。また、局を超えたプロジェクトチームに参加することで、様々な機関との連携を強化している。
- ・ 当センターは、県教育委員会関係課と連携しながら研修を実施している。また、大学や福祉関係機関等から研修講師を招聘するなど、インクルーシブ教育システム推進に係る効果的な方法を模索している。
- ・ 県教育委員会との連携、意見交換。今年度から県教育委員会特別支援教育課と教育センター特別支援教育研修室との合同オンライン会議を月に1回実施している。
- ・ 学校等支援では、学校や教育関係団体研修への講師派遣（令和6年度実績：42件）を通じて現場のニーズに応じた指導助言を行い、教職員の専門性向上と支援体制の充実に図り、特別支援教育の現場で求められる課題に対応している。